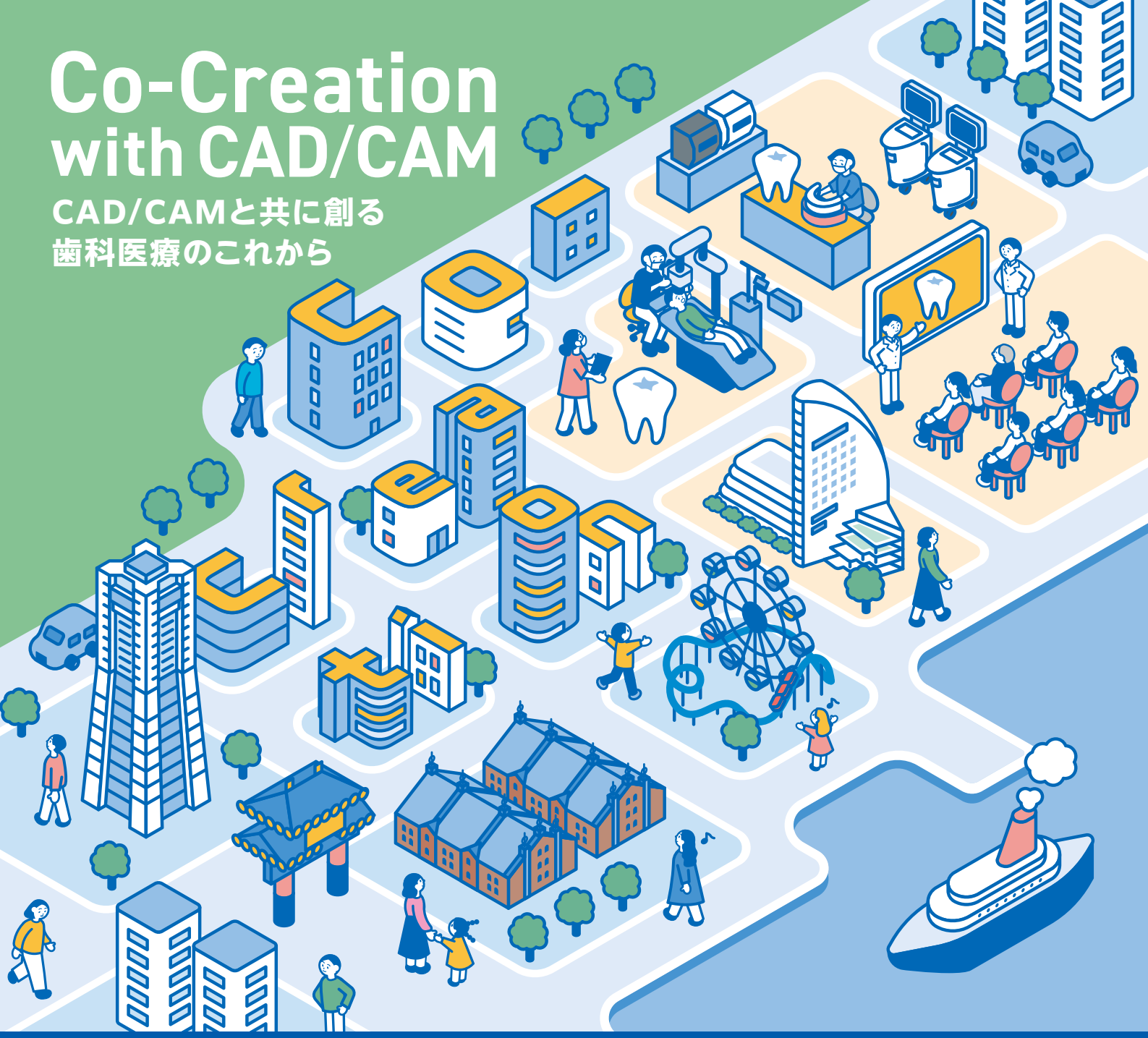
Co-Creation with CAD/CAM

CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから



日本臨床歯科CADCAM学会 第12回学術大会
有床義歯学会 第11回学術大会［共催］

2026 12月5日［土］6日［日］

■会場：パシフィコ横浜 会議センター４階・５階
■主催：一般社団法人 日本臨床歯科CADCAM学会
■後援：公益社団法人 神奈川県歯科医師会、一般社団法人 横浜市歯科医師会

Co-Creation with CAD/CAM CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから

歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士・すべての歯科スタッフ、さらにはメーカー・ディーラー、そして患者、社会が共に創る（Co-Creation）という視点を込めています。CAD/CAMは単なる機械や装置ではなく、「対話」「協働」「価値創出」のための共通言語であり、臨床と教育、技術と人、地域と世界をつなぐ架け橋となりうるものです。

JSCAD Japanese Society of Computer Aided Dentistry

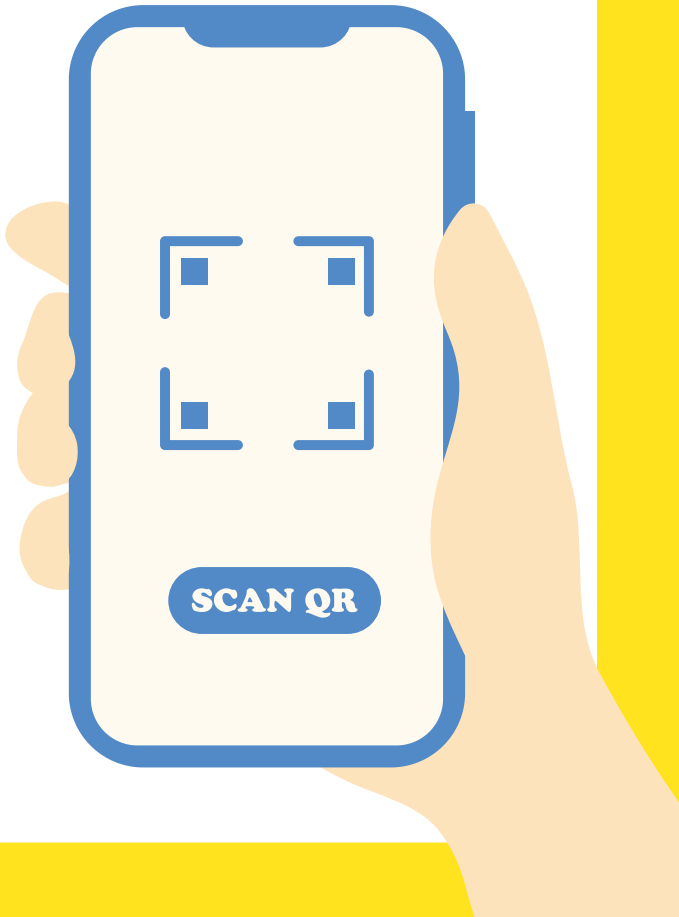
日本臨床歯科CADCAM学会

第12回学術大会

来場者アンケート

本日は学術大会にご来場いただきありがとうございます！ご参加の皆様にアンケートにご協力をお願いいたします。

今後のより良い学会運営の参考にさせていただきます。



パシフィコ横浜

ACCESS GUIDE

羽田空港から直通リムジンで約 40 分
最寄駅：みなとみらい線 みなとみらい駅 / JR 桜木町駅
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1　TEL.045-221-2155

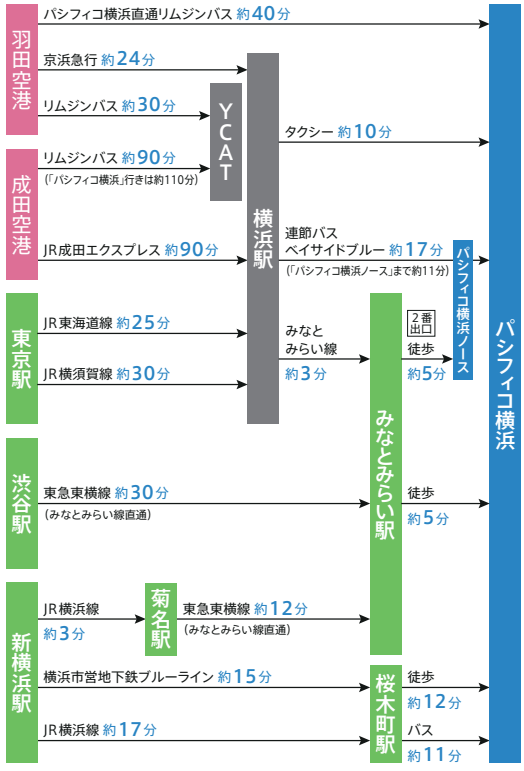




駐車場のご案内

P1 みなとみらい公共駐車場　P2 臨港パーク駐車場
P3 バス・大型駐車場　P4 ノース駐車場

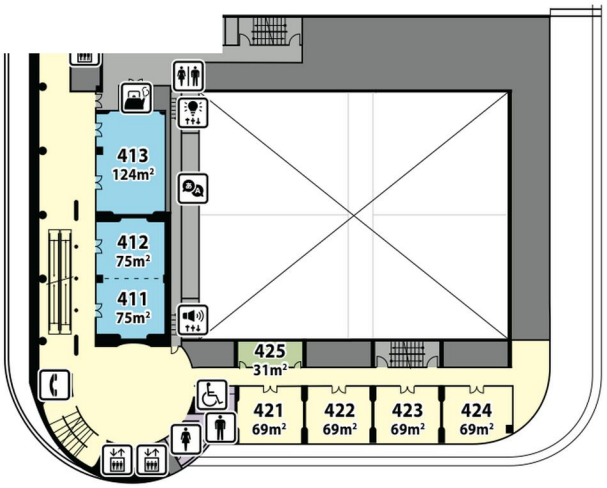
2023.8



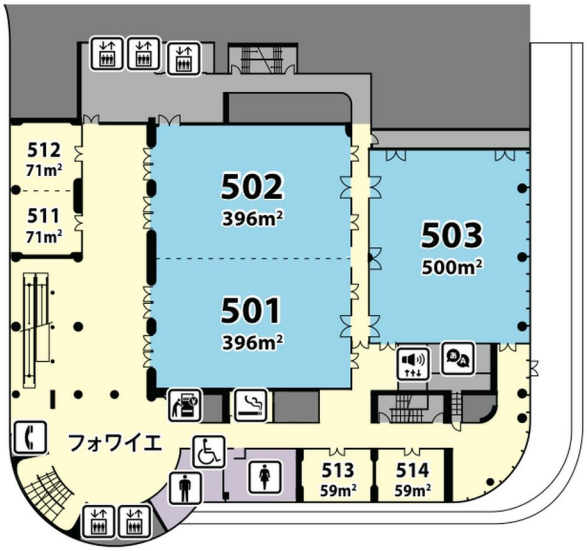
パシフィコ横浜 会議センター

青色で示した部屋が会場です。

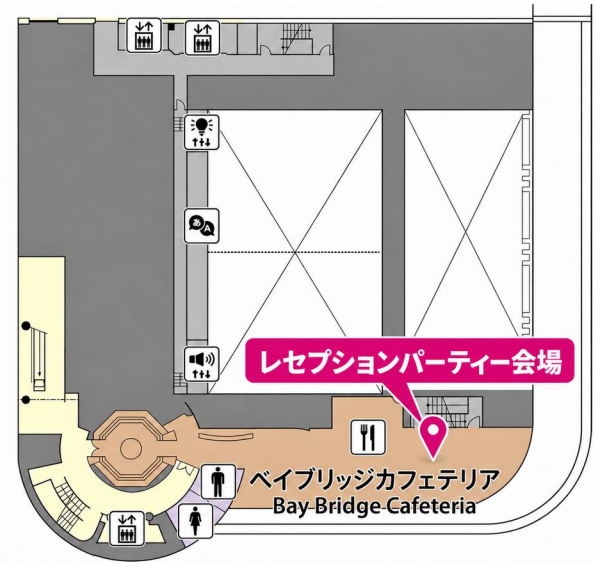
4F



5F



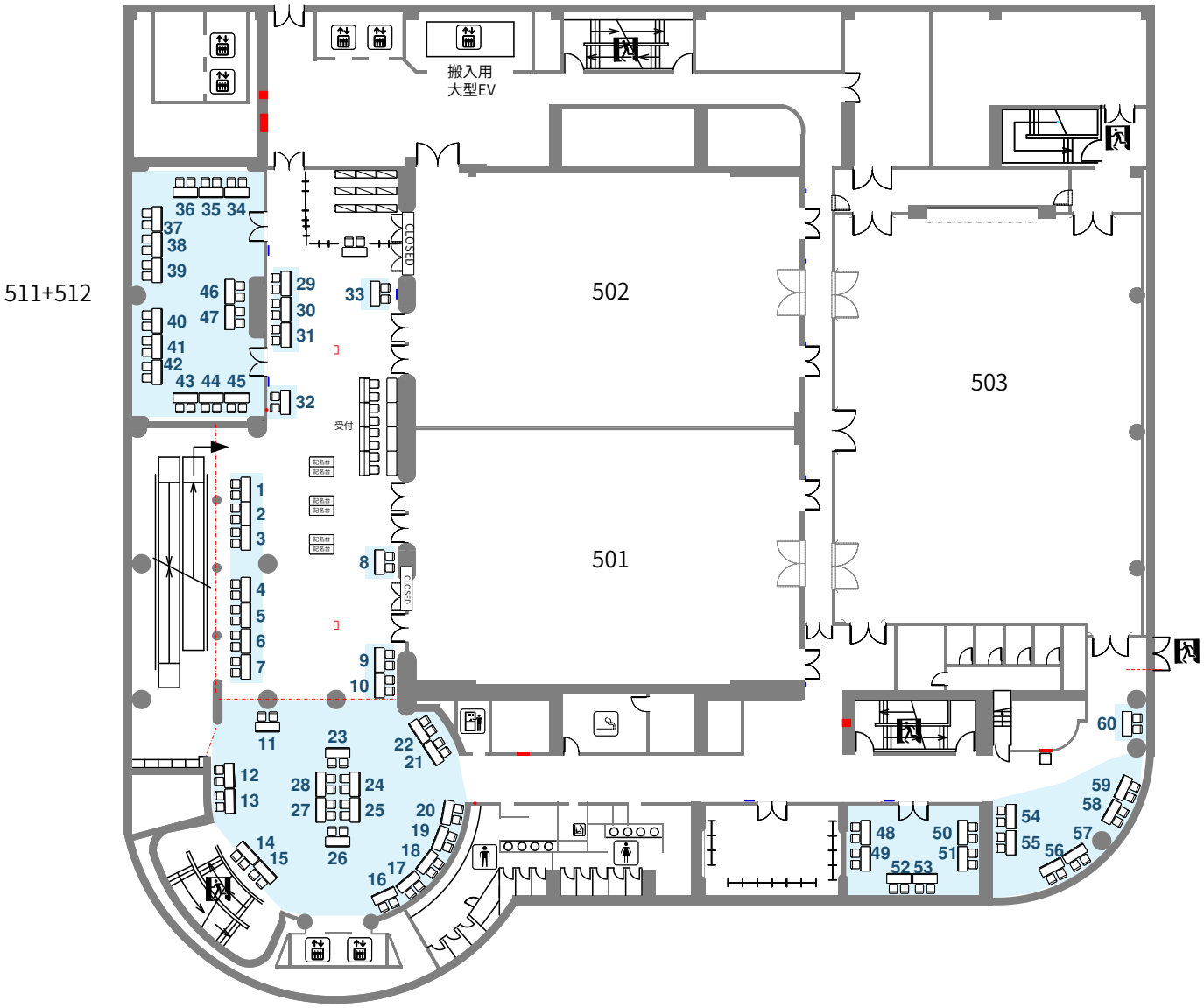
6F



企業配置図

5F

企業番号 1〜60



出展企業一覧

1・2・3	株式会社モリタ	26	白水貿易株式会社	44	株式会社オルコア
4・5	株式会社ヨシダ	27・28	クインテッセンス出版株式会社	45	株式会社CS-C
6・7	Ivoclar Vivadent株式会社（1）	29	Ivoclar Vivadent株式会社（2）	46・47	クルツァー ジャパン株式会社
8	Deltan株式会社	30	株式会社SCOグループ	48	株式会社歯愛メディカル
9・10	株式会社4DX	31	MEDIT	49	株式会社フォレスト・ワン
11	東京歯科産業株式会社	32	株式会社NNG	50	株式会社メディカルネット
12・13	インターアクション株式会社	33	株式会社クエスト	51	ホワイトエッセンス株式会社
14・15	株式会社デンタルダイヤモンド社	34	株式会社GENOVA	52	錦部製作所
16・17	DGSHAPE株式会社	35	株式会社アブソルート	53	三井住友トラストクラブ株式会社
18	クラレノリタケデンタル株式会社	36	株式会社クラフトデンタル	54	株式会社DentaLight
19	株式会社メディアート	37	株式会社茂久田商会	55	株式会社ユニタック
20	インビザライン・ジャパン合同会社	38	エンビスタジャパン株式会社	56	株式会社Tenyi
21	デンツプライシロナ株式会社	39	株式会社松風	57	デンケン・ハイデンタル株式会社
22	株式会社ジーシー	40・41	Imagoworks Inc.	58	ケンテック株式会社
23	ワインハウスゲアハルト株式会社	42	株式会社ガイドデント	59	stunning grow medical株式会社
24・25	株式会社RAY JAPAN	43	バイコンジャパン株式会社	60	株式会社オール・デンタル・ジャパン

※掲載のブース配置・番号は、プログラム集発行後に変更となる場合があります。

第12回 JSCAD学術大会 ｜ 有床義歯学会 第11回学術大会【共催】｜ 2026年12月5日(土)・6日(日)
パシフィコ横浜 会議センター ４階 ・ ５階

Co-Creation with CAD/CAM
CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから

企業ブース スタンプラリー

企業ブースを巡って、ガチャにチャレンジ！

5ブースごとにガチャ1回！最大3回チャレンジ！

参加方法

1. 企業ブースを回って、スタンプを集めよう！
2. 5ブースでガチャ1回、10ブースで2回目、15ブースで3回目！
3. 1列そろったらガチャブースへ！
4. 当たりが出たらプレゼントGET！
   ※同じ企業の重複は不可

学びながら、交流しながら、楽しくブースを回ろう！

当たりが出たら素敵なプレゼント！



ガチャチャレンジは、学会イベントブースにて開催中！

Co-Creation with CAD/CAM

CAD/CAMと共に創る
歯科医療のこれから



実行委員会 組織図

日本臨床歯科CADCAM学会 第12回学術大会

有床義歯学会 第11回学術大会［共催］

実行委員長

髙松 雄一郎

運営統括委員

江本 正	理事長	北道 敏行	大会長
小室 暁	学術／ハンズオン	毛呂 文紀	副実行委員長・会場・JPDA共催担当
熊谷 俊也	副実行委員長／ハンズオン	中井 巳智代	副実行委員長／受付・会員対策
小林 健一郎	副実行委員長／企業・展示	辻 展弘	副実行委員長／プログラム・ジャーナル
池田 祐一	第１３回学術大会実行委員長・JPDA共催担当	寺村 俊	会員対策
千葉 崇	一般会員発表・ポスター・COI	林 敬人	歯科技工士部会担当理事
片山 慶祐	歯科衛生士部会担当理事	前川 泰一	歯科技工士部会部長
河野 充子	歯科衛生士部会部長		

有床義歯学会（JPDA）共催担当

山崎 史晃	JPDA代表	相澤 正之	JPDA代表

実行委員

岸 輝樹	会計・会場・受付	伊藤 慎	広報
下田 孝義	会報	藤井 肇基	懇親会
堀 良彦	倫理委員会・会員発表	川上 伸大	プログラム・ジャーナル
佐久間 利喜	ハンズオン	折原 雅洋	学術・ハンズオン
關 利啓	プログラム	小林 祐二	DA・スタッフ枠
末木 芳佳	企画	吉野 英司	認定
濱田 真理子	歯科衛生士部会	菅原 舞子	歯科衛生士部会

実行委員長補佐

木田 智久

山口 圭輔

デザインクリエイティブ

市村 彰　広報・フライヤー

事務局

長内 朝子　小向 隆太

秋谷 雄輝　隅田 理佳子

目次

大会案内
会場アクセス ・・・・ 4
会場案内（4F・5F・6F） ・・・・ 5
企業配置図 ・・・・ 6
企業ブーススタンプラリー（ガチャチャレンジ） ・・・・ 7
実行委員会 組織図 ・・・・ 8

プログラム
タイムテーブル 12月5日（土） ・・・・ 10
タイムテーブル 12月6日（日） ・・・・ 11
演者・座長の先生方へのご案内 ・・・・ 12
オプショナルディナー／JSCAD FreshMeetup ・・・・ 13

ご挨拶
大会長挨拶　北道 敏行 ・・・・ 14
理事長挨拶　江本 正 ・・・・ 15
有床義歯学会 会長挨拶　山崎 史晃 ・・・・ 16
実行委員長挨拶　髙松 雄一郎 ・・・・ 17
神奈川県歯科医師会 会長挨拶　守屋 義雄 ・・・・ 18
横浜市歯科医師会 会長挨拶　佐藤 信二 ・・・・ 19

海外演者講演 Ⅰ・Ⅱ
海外講演Ⅰ　李 采娟（Lee, Chae-Yeon） ・・・・ 20
海外講演Ⅱ　張 根榮（Jang, Keun-Young） ・・・・ 21

教育講演
黒嶋 伸一郎 ・・・・ 22

認定医教育講演
菅原 舞子・江本 正・井上 高暢・熊谷 俊也 ・・・・ 23

基調講演
長縄 拓哉 ・・・・ 24
野田 真一 ・・・・ 25

シンポジウム
シンポジウムⅠ　新井 嘉則 ・・・・ 26
シンポジウムⅠ　永田 裕保 ・・・・ 27
シンポジウムⅠ　草野 薫 ・・・・ 28

企画講演 Ⅰ・Ⅱ
企画講演Ⅰ　岩寺 信喜 ・・・・ 29
企画講演Ⅱ　續木 アナスタシア ・・・・ 30

特別講演
中島 航輝 ・・・・ 31

共催特別講演
佐藤 勝史 ・・・・ 32

歯科衛生士セッション
歯科衛生士セッション 講演Ⅰ　加藤 正治 ・・・・ 33
歯科衛生士セッション 講演Ⅱ（歯科衛生士認定講座）
浅野 弥生・永田 翔大 ・・・・ 34

歯科技工士セッション
歯科技工士セッション 講演Ⅰ（歯科技工士認定講座）
浅賀 信寛・島村 亮平 ・・・・ 36

有床義歯学会
有床義歯学会（JPDA）のご案内 ・・・・ 38

有床義歯学会講演 Ⅰ～Ⅶ
講演Ⅰ　前畑 香 ・・・・ 39
講演Ⅱ　佐藤 大介 ・・・・ 40
講演Ⅲ・Ⅳ　中野 進也・今田 裕也 ・・・・ 41
講演Ⅴ・Ⅵ　野澤 康二 ・・・・ 42
講演Ⅴ・Ⅵ　亀遊 宏直 ・・・・ 43
講演Ⅶ　飯田 雄太 ・・・・ 44

特別企画 Co-Creation
特別企画　Co-Creation Cafe & Sweets ・・・・ 45

ハンズオンセッション
毛呂 文紀・池田 祐一・辻 展弘・山崎 史晃 ・・・・ 46
中島 世陽 ・・・・ 47
米原 慎佑 ・・・・ 48
川上 伸大 ・・・・ 49
吉村 拓郎 ・・・・ 50
川上 伸大・植田 愛彦・毛呂 文紀・熊谷 俊也 ・・・・ 51
花田 純枝 ・・・・ 52
松岡 伸也 ・・・・ 53
杉山 隆栄 ・・・・ 54

法規・倫理セミナー（歯科医師認定講座3単位）
小畑 真 ・・・・ 55

会員発表
① 田中 雅 ・・・・ 56
② 大谷 陸 ・・・・ 57
③ 石川 航生 ・・・・ 58
④ 山田 とわ ・・・・ 59
⑤ 丸橋 伸行 ・・・・ 60
⑥ 河野 高志 ・・・・ 61
⑦ 末木 芳佳 ・・・・ 62
⑧ ブルース 淳 アレックス ・・・・ 63
⑨ 安岡 大介 ・・・・ 64

ポスター発表
ポスター発表 一覧 ・・・・ 65

総括講演
山崎 史晃・北道 敏行 ・・・・ 66

ランチョンセミナー
ランチョンセミナー A～E ・・・・ 67

認定審査委員会
認定審査会開催のお知らせ ・・・・ 68

お知らせ
夏フェス2027 ONE TEAM DENTISTRY（大阪） ・・・・ 75
第13回学術大会 開催予告 ・・・・ 76

第12回 日本臨床歯科CADCAM学会 学術大会 ／ 有床義歯学会 第11回学術大会［共催］　12月5日［土］

時刻	503 ［300名］	501 ［200名］	502 ［200名］	411+412 ［60名］	413 ［50名］
	開場・受付　8:30 ～				会員発表試写
9:00	**開会式** 9:00 ～ 9:20				
10:00	**会員発表** 9:30 ～ 12:00 ①田中 雅 ②大谷 陸 ③石川 航生 ④山田 とわ ⑤丸橋 伸行 ⑥河野 高志 ⑦末木 芳佳 ⑧ブルース 淳 アレックス ⑨安岡 大介	認 DT **歯科技工士セッション 講演Ⅰ** **（歯科技工士認定講座）** *Digital Workflow & Material Selection* 浅賀 信寛 *デジタルデザイン時代における審美補綴製作* 島村 亮平 9:30 ～ 11:30	**法規・倫理セミナー** DH DT 認 **（歯科医師認定講座）** *デジタル歯科時代の* *法的リスクマネジメントと* *業務範囲の境界線* 小畑 真 9:30 ～ 10:20	**認定医教育講演** *トレーナー育成 スタートアップコース* *伝える力で、未来を変える* 菅原 舞子／江本 正／ 井上 高暢／熊谷 俊也 9:30 ～ 11:30 **★定員制・事前申込**	**認定審査委員会 9:30 ～ 10:00** **認定審査会 10:00 ～ 12:00**
11:00			DH **海外講演Ⅰ** *The K-Digital Way* *How We Build Clinical Excellence* *through Digital Scanning* 李 采娟（Lee, Chae-Yeon）DH 10:40 ～ 11:30 Sponsored by MEDIT		
12:00		**ランチョンセミナー A** インビザライン・ジャパン合同会社 櫻井 祐弥 11:50 ～ 12:40	**ランチョンセミナー B** 株式会社SCOグループ 小島 秀騎 11:50 ～ 12:40	**ランチョンセミナー C** 株式会社ヨシダ 前畑 香 11:50 ～ 12:40	
13:00	**シンポジウムⅠ** **診断×インプラント×矯正** *歯科用CBCTの原理から知る有効性とその限界* 新井 嘉則 *Diagnosis First* *―包括的歯科治療におけるデジタル活用―* 永田 裕保 *CAD/CAMと共に創るインプラント治療と* *矯正歯科* 草野 薫 13:00 ～ 16:20（途中休憩あり）	DH **歯科衛生士セッション 講演Ⅰ** *歯科衛生士がサポートする* *口腔内スキャナーの運用と長期管理* 加藤 正治 13:00 ～ 14:00	DT **基調講演** *誰も取り残さない歯科医療へ* *―医療MaaSとデジタルデンティストリーが* *拓く未来―* 長縄 拓哉 *100人の入れ歯難民を救え* *―誰も取り残さない歯科医療* *エコシステムの実現へ―* 野田 真一 13:00 ～ 14:30	**ハンズオンセッション** *exoplanを駆使したサージカルガイド製作* 中島 世陽 13:20 ～ 14:20 **★定員制・事前申込**	認 **ハンズオンセッション** **CCCアドバンス　デジタルデンチャー** **（DR向け）** *吸着義歯から始めるデジタルデンチャー* *―アナログ印象から* *3Dプリントまでを体験する―* 山崎 史晃／毛呂 文紀／ 辻 展弘／池田 祐一 12:50 ～ 15:50 **★定員制・事前申込**
14:00		DH **企画講演Ⅰ** **小児歯科×digital** *子どもの未来を可視化する口腔内スキャナー* *―形態と機能から成長を支える小児歯科―* 岩寺 信喜 14:20 ～ 15:20			
15:00		DH **企画講演Ⅱ** **高齢者歯科×digital** *訪問歯科の未来を拓くDX戦略* *IOSとデジタルカルテの* *メリット・デメリットから考える地域連携* 續木 アナスタシア 15:30 ～ 16:30	DT **共催特別講演** *DigitalとSuction Denturの融合* 佐藤 勝史 15:00 ～ 16:20	**ハンズオンセッション** *機種を選ばない！* *LCD 3D プリンターの* *キャリブレーション完全攻略* 米原 慎佑 15:00 ～ 16:00 **★定員制・事前申込**	
16:00					
17:00	**レセプションパーティー** 17:00 ～ 18:00 会議センター6F カフェテリア ベイブリッジ 参加費無料・順次お集まりください				

※ 氏名は敬称略

学会講演　有床義歯学会　歯科技工士　歯科衛生士　企画講演・特別企画　ハンズオン等（事前申込制）　■ランチョン　■審査会　太枠＝定員制・事前申込

DH DT について　すべての講演は歯科医師の皆さまにおすすめの内容です。このうち、歯科衛生士の皆さまにもおすすめできる講演に DH（赤）、歯科技工士の皆さまにもおすすめできる講演に DT（青）のマークを付しました。どの講演も職種を問わずご参加いただけますので、会場選びの目安としてご活用ください。

認 について　認定単位が付与される講演です。単位は職種ごとに分かれており、法規・倫理セミナー（歯科医師認定講座）は歯科医師、歯科技工士セッション 講演Ⅰは歯科技工士、歯科衛生士セッション 講演Ⅱは歯科衛生士のための単位です。単位数は抄録集の各講演ページ、取扱いは各認定制度の規程をご確認ください。取得には本学会の会員であること、デジタル会員証への登録、当日会場での二次元コードによる受講証明の登録が必要です。

★ハンズオンセミナー・CCCアドバンス・認定医教育講演は定員制です。事前にホームページよりお申し込みください。空席がある場合のみ当日受付を行います。
ランチョンセミナー A～C は 11:50 ～ 12:40。レセプションパーティーは 17:00 ～ 18:00、会議センター6F カフェテリア ベイブリッジにて。参加費無料・順次お集まりください。皆様のご参加をお待ちしています。
※ イベントの内容は予告なく変更する場合があります。
◆ カメラマークの講演は、2027年4月頃を目途に学会会員向けの期間限定オンデマンド配信を予定しています（有償となる場合があります）。配信時期・内容は予告なく変更、または中止となる場合があります。

第12回 日本臨床歯科CADCAM学会 学術大会 ／ 有床義歯学会 第11回学術大会［共催］　12月6日［日］

時刻	503 ［300名］	501 ［200名］	502 ［200名］	411+412 ［60名］	413 ［50名］
	有床義歯学会		日本臨床歯科CADCAM学会		
	開場・受付　8:30 ～				
9:00	**開会式　9:00 ～** **講演 I** *デジタル義歯入門 ―従来法全部床義歯 VS プリント義歯VS ミルド義歯―* 前畑 香 9:10 ～ 9:50	**歯科衛生士セッション 講演 II （歯科衛生士認定講座）** DH *良質なIOSデータ採得を支える* 認 *歯科衛生士の役割 ―歯科衛生士過程に基づく口腔環境管理―* 浅野 弥生 *CAD/CAM セラミックス修復の 長期予後を考える ―経年変化を踏まえたメンテナンス戦略―* 永田 翔大 9:00 ～ 10:30	DT **教育講演** *デジタルインプラント治療の 科学的現在地を理解する* 黒嶋 伸一郎 9:00 ～ 10:20	認 **ハンズオンセッション CCCアドバンス（補綴修復）①** *保険CAD/CAMインレー形成 「考え方と形成実習」* 川上 伸大／熊谷 俊也 9:00 ～ 10:30 ★定員制・事前申込	**ハンズオンセッション** *MiYOによるデジタル時代の色彩表現 ―再現性の高い ステインテクニックを学ぶ―* 吉村 拓郎 9:30 ～ 10:30 ★定員制・事前申込
10:00	**講演 II** *三次元プリント有床義歯を 成功に導く製作の注意点* 佐藤 大介 9:50 ～ 10:30				
11:00	**講演III・IV** *部分床義歯製作の実践的アプローチ アナログとデジタルの優位性を 工程別に整理する* 中野 進也／今田 裕也 11:00 ～ 11:50		DT **特別講演** *顎運動のデジタル化がもたらす 次世代CAD/CAM臨床の実際* 中島 航輝 10:50 ～ 11:50	認 **ハンズオンセッション CCCアドバンス（補綴修復）②** *一歩先のシステム体感会 「チェアサイドCAD/CAM修復」* 川上 伸大／植田 愛彦／ 毛呂 文紀／熊谷 俊也 10:50 ～ 12:20 ★定員制・事前申込	**ハンズオンセッション** *写真が変わると、印象が変わる ～患者さんを美しく撮るための カメラワーク～* 花田 純枝 11:10 ～ 12:10 ★定員制・事前申込
12:00	**ポスター討論　11:50 ～ 12:10** 会場：会議センター5F　513 前（ポスター掲示エリア）　／　発表者がポスター前に在席し、質疑応答を行います				
	ランチョンセミナー D 株式会社モリタ 阿座上 遼子 12:10 ～ 13:00	**特別企画 Co-Creation Cafe & Sweets** 体験型企業展示ブース IOSやソフトウエア、 パウダーメンテナンスなどケア製品まで お手にとって体験できます。 また、コーヒーや軽食を ご用意しています ご自由にお入りください。 12:30 ～ 16:00 （15:00 以降、終了するブースもあります）	**ランチョンセミナー E** 株式会社RAY JAPAN 藤本 智也 12:10 ～ 13:00		
13:00				認 **ハンズオンセッション CCCアドバンス（矯正）** *歯科矯正ハンズオンセミナー 抜歯症例を攻略する ClinCheck®実践ハンズオン* 松岡 伸也 13:00 ～ 15:00 ★定員制・事前申込	認 **ハンズオンセッション CCCアドバンス　AIハンズオン** *AI でクリニックを変革する ―活用で終わらせない本質の導入へ―* 杉山 隆栄 13:20 ～ 14:50 ★定員制・事前申込 Sponsored by インマーケティングラボ
14:00	**講演V・VI** *デジタル総義歯製作の現在地 ―ミリングと従来法の比較―* 野澤 康二／亀遊 宏直 13:20 ～ 14:10 **講演VII** *精度の先にあるもの ―Take Home Try-inが拓く デジタルデンチャーの臨床的真価* 飯田 雄太 14:10 ～ 14:40		**海外講演 II** *The K-Digital Way How We Run a High-Performance Digital Clinic* 張 根榮（Jang, Keun-Young） 13:20 ～ 14:40 Sponsored by MEDIT		
15:00	**総括講演** 山崎 史晃　JPDA会長 北道 敏行　JSCAD会長 15:00 ～ 16:00				
16:00	**閉会式** 16:00 ～				
17:00					

ハンズオンセミナー・CCCアドバンス　お申し込み

**ハンズオンセミナーは
こちら**

左の二次元コードから
お申し込みください

※ 氏名は敬称略

学会講演　有床義歯学会　歯科技工士　歯科衛生士　企画講演・特別企画　ハンズオン等（事前申込制）　■ランチョン　■審査会　太枠＝定員制・事前申込

DH DT について　すべての講演は歯科医師の皆さまにおすすめの内容です。このうち、歯科衛生士の皆さまにもおすすめできる講演に DH（赤）、歯科技工士の皆さまにもおすすめできる講演に DT（青）のマークを付しました。どの講演も職種を問わずご参加いただけますので、会場選びの目安としてご活用ください。

認 について　認定単位が付与される講演です。単位は職種ごとに分かれており、法規・倫理セミナー（歯科医師認定講座）は歯科医師、歯科技工士セッション 講演 I は歯科技工士、歯科衛生士セッション 講演 II は歯科衛生士のための単位です。単位数は抄録集の各講演ページ、取扱いは各認定制度の規程をご確認ください。取得には本学会の会員であること、デジタル会員証への登録、当日会場での二次元コードによる受講証明の登録が必要です。

★ハンズオンセミナー・CCCアドバンスは定員制です。事前にホームページよりお申し込みください。空席がある場合のみ当日受付を行います。
ランチョンセミナー D・E は 12:10 ～ 13:00。閉会式は 16:00 ～。
※ イベントの内容は予告なく変更する場合があります。
◆ カメラマークの講演は、2027年4月頃を目途に学会会員向けの期間限定オンデマンド配信を予定しています（有償となる場合があります）。配信時期・内容は予告なく変更、または中止となる場合があります。
◆ ポスター発表は 会議センター5F　513 前 に掲示します。12月6日 11:50 ～ 12:10 は発表者がポスターの前に在席し、質疑応答を行います（座長は置きません）。

演者・座長の先生方へのご案内

● 演者の先生方へ

1．試写は、ご自身の講演の前の休憩時間に各会場で行えます。会場係が準備に入る講演開始の 20 分前から可能です。朝一番のセッションは開始 30 分前に開場します。上記以外の時間をご希望の場合は、事前に事務局へご相談ください。

2．各講演の演者は、プログラム開始の 15 分前までに会場へお越しいただき、座長と打ち合わせのうえ、会場前方のお席でお待ちください。

3．限られたプログラムを円滑に進めるため、お持ち時間の厳守にご協力をお願いいたします。

4．質疑応答は講演時間内に行います。質疑の時間を含めた構成でご準備をお願いいたします。

5．ハンズオンおよびCCCアドバンス等のセッションについては、準備時間等を個別に事前調整してください。ご準備に関するご質問は、日本臨床歯科CADCAM学会事務局までお問い合わせください。

6．12月6日 503 会場の有床義歯学会の講演について、試写など運営に関するご質問・ご相談は、有床義歯学会事務局までお問い合わせください。

● 座長の先生方へ

1．本大会では司会を置きません。開会のご挨拶から演者のご紹介、時間管理、質疑応答の進行、閉会と次セッションのご案内まで、セッションの進行は座長にお任せいたします。

2．座長は、事前に演題の抄録と発表者の研究内容を十分にご検討ください。

3．座長は、プログラム開始の 20 分前までに会場へお越しいただき、会場係およびご担当の演者と打ち合わせのうえ、会場前方のお席でお待ちください。

4．進行の時間厳守をお願いいたします。

5．発表が時間を超過する場合は、座長の判断で講演を終了させてください。

6．質疑応答、討議、総括等を適切に行い、講演を有意義なものにしてください。

7．座長が 2 名のセッションでは、開始前にお二人で役割分担をご相談ください。

日時	時間	ジャンル	演者	会場	座長	
12/5［土］	9:30 ～ 12:00	会員発表		503	小室 暁／堀 良彦／竜 正大	
	9:30 ～ 10:20	法規・倫理セミナー	小畑 真	502	藤井 肇基	
	9:30 ～ 11:30	歯科技工士セッション 講演 I	浅賀 信寛・島村 亮平	501	伊藤 竜馬・飛田 茜	濱崎 順一・師玉 大志
	10:40 ～ 11:30	海外講演 I	李 采娟（Lee, Chae-Yeon）	502	中井 巳智代	河野 充子
	13:00 ～ 14:30	基調講演	長縄 拓哉・野田 真一	502	岸 輝樹	前川 泰一
	13:00 ～ 16:20	シンポジウム I	新井 嘉則・永田 裕保・草野 薫	503	小室 暁	小林 健一郎
	13:00 ～ 14:00	歯科衛生士セッション 講演 I	加藤 正治	501	片山 慶祐	永田 翔大
	14:20 ～ 15:20	企画講演 I　小児歯科×digital	岩寺 信喜	501	木田 智久	
	15:00 ～ 16:20	共催特別講演	佐藤 勝史	502	相澤 正之	竜 正大
	15:30 ～ 16:30	企画講演 II　高齢者歯科×digital	績木 アナスタシア	501	佐久間 利喜	
12/6［日］	9:00 ～ 10:30	歯科衛生士セッション 講演 II	浅野 弥生・永田 翔大	501	河野 充子	濱田 真理子
	9:00 ～ 10:20	教育講演	黒嶋 伸一郎	502	堀 良彦	山口 圭輔
	9:10 ～ 9:50	有床義歯学会 講演 I	前畑 香	503		
	9:50 ～ 10:30	有床義歯学会 講演 II	佐藤 大介	503		
	10:50 ～ 11:50	特別講演	中島 航輝	502	辻 展弘	
	11:00 ～ 11:50	有床義歯学会 講演III・IV	中野 進也・今田 裕也	503		
	13:20 ～ 14:10	有床義歯学会 講演 V・VI	野澤 康二・亀遊 宏直	503		
	13:20 ～ 14:40	海外講演 II	張 根榮（Jang, Keun-Young）	502	北道 敏行	高松 雄一郎
	14:10 ～ 14:40	有床義歯学会 講演VII	飯田 雄太	503		
	15:00 ～ 16:00	総括講演	山崎 史晃・北道 敏行	503	司会　末木 芳佳	

Co-Creation with CAD/CAM

全会場 19:00 スタート！

日本臨床歯科CADCAM学会 第12回学術大会

オプショナルディナーのご案内

12月5日（土）19:00〜 ｜ 学会の仲間と横浜の夜を楽しみましょう！



海に浮かぶレストランで、夜景とBBQを。

旧 ヘミングウェイ横浜
西区みなとみらい2-1-1
横浜港ボートパーク
担当：佐久間利喜・末木芳佳
暖房設備あり／上着をご着用ください。

公式サイト



中華街の老舗で味わう、本格広東料理。

横浜中華街・広東料理
中区山下町153番地
担当：毛呂文紀・林敬人

公式サイト



屋形船から、きらめく横浜の夜景を満喫。

桜木町乗船場
ワシントンホテル裏・弁天橋乗り場
担当・参加予定者：千葉崇・小室暁
18:45集合・19:00出港【時間厳守】

公式サイト



本場の韓国料理を、仲間とにぎやかに。

中区港町1-1-1
BASEGATE横浜関内 2F
担当：中井巳智代・山口元嗣
このディナーの流れで懇親会へ ↓

公式サイト

ディナーのあとも、交流のひとときを。



JSCAD FreshMeetup

笑顔でつながる 新入会員交流会

20:30 START

BASEGATE横浜関内 集合

JR関内駅 南口より徒歩すぐ

掲載画像はイメージです

ご挨拶 大会長



一般社団法人 日本臨床歯科CADCAM学会 会長／第12回学術大会 大会長

北道 敏行

このたび，本学術大会を開催するにあたり，大会長として皆様にご挨拶申し上げます.

本大会のテーマは「Co-Creation with CAD/CAM ― CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから」といたしました．デジタル技術は，いまや歯科医療の一部にとどまるものではなく，診断，補綴，修復，インプラント，技工，教育，さらには患者とのコミュニケーションに至るまで，日常臨床のあらゆる場面をつなぐ基盤となりつつあります．その一方で，どれほど優れた機器やソフトウェアがあっても，それを活かすのは人です．そこに生まれる「対話」「協働」「価値創出」こそが，これからのデジタルデンティストリーを前へ進める力になると考えています.

そこで本大会では，歯科医師，歯科技工士，歯科衛生士をはじめ，メーカー，ディーラー，教育機関，そして患者・社会までを含め，立場や職種の垣根を越えて共に未来を創る「Co-Creation」という考え方を中心に据えました．CAD/CAMを単なる機械や装置として捉えるのではなく，臨床と教育，技術と人，地域と世界を結ぶ“共通言語”として考える機会にしたいと思います．デジタル化の目的は，従来の治療を単に置き換えることではありません．より確実で，より効率的で，そして患者にとってより価値のある歯科医療へと進化させることにあります.

そして今回，特に大きな意義を持つのが，有床義歯学会との共催です． デジタル歯科というと，これまでクラウン・ブリッジやインプラントなど固定性補綴の領域が注目されることが多くありました．しかし現在では，口腔内スキャナー，CAD設計，3Dプリンティング，ミリングなどの進歩により，有床義歯の診断・設計・製作にもデジタル技術が急速に広がっています．高齢社会を迎える日本において，有床義歯学とデジタル歯科が同じ場で議論し，互いの知見を共有することは，今後の補綴歯科医療を考えるうえで極めて重要です．それぞれが培ってきた臨床知とデジタル技術を融合することで，これまでにない治療の選択肢や新しいワークフローが生まれる可能性があります．今回の共催が，従来の枠組みを越えた新たな連携を生み，デジタルデンチャーを含む次世代の補綴歯科医療を共に創る大きな一歩になることを期待しています.

本大会では，第一線で活躍される先生方による講演やディスカッションを通じて，最新技術を知るだけでなく，「明日からの臨床に何を持ち帰るのか」「これからの歯科医療を誰と，どのように創っていくのか」を皆様と共に考えたいと思います．異なる専門性や経験が交わることで，新しい発想が生まれ，次の価値へとつながっていく．その瞬間こそが，まさにCo-Creationです.

本大会が，多くの皆様にとって新たな学びと出会いの場となり，これからの歯科医療を共に創る出発点となることを願っております．皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます.

ご挨拶 理事長



一般社団法人 日本臨床歯科CADCAM学会 理事長

江本 正

皆さま，日本臨床歯科CADCAM学会学術大会にご参加いただき，ありがとうございます．当学会はすでに1,000人を優に超える会員を擁し，今大会は第12回を迎えます．

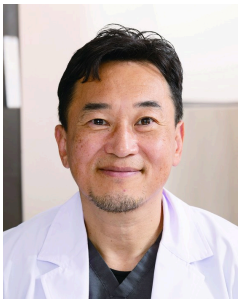
我々の学会がテーマとして掲げておりますCAD/CAMは，歯科の中では一分野の技術にすぎないものではありますが，修復・補綴装置にとどまらず多くの歯科領域において切っても切れない関係となってまいりました．精度・確度や再現性の高さももはや当たり前となり，加工器のスタイルも多岐に渡り，たくさんの分野で活用されてなお拡大傾向となってきております．さらに取り巻く企業は凌ぎを削る状況から日進月歩の技術改革が当然となっております．

臨床の現場で医療を提供する医療従事者としては，現状提供されている技術，さらに今後上市する可能性のある技術の情報収集と導入に向けての取捨選択にいとまのない状況にあると思います．

このような状況下において，当学会といたしましてはこの学術大会の企画を通じ，会員の貴重な研究発表の場の提供，学術的な情報提供，各協賛企業からの最新情報の共有など，明日からの歯科臨床に活用できる場としていただければ光栄と存じております．

大会会場を取り巻く環境にも恵まれ，ご参加の皆様にもご好評を得ている横浜開催は，第8回学術大会の「神奈川県歯科保健総合センター」に始まり，今回で5回目の開催となります．学術研鑽と併せて，会員交流の場としてアフターもお楽しみいただければ幸いに存じます．

ご挨拶 有床義歯学会 会長



有床義歯学会 会長

山崎 史晃

日本臨床歯科CADCAM学会ならびに有床義歯学会の会員の皆様，そして本日ご参加いただきましたすべての歯科医療関係者の皆様に，有床義歯学会会長として，心より御礼申し上げます．私たちは今，義歯臨床における大きな転換点に立っています．

総義歯の製作法は，約100年にわたり，その基本的な考え方や術式が大きく変わることなく受け継がれてきました．しかし今，デジタルデンチャーという新たな技術によって，その歴史が大きく動き始めています．これは単なる「デジタル化」ではありません．義歯をどのように製作し，どのように患者様へ届けるのかという，補綴臨床そのものを見直す機会であると，私は考えています．私たち有床義歯学会は，この可能性にいち早く着目し，9年前からデジタル義歯の臨床応用と研究に取り組んでまいりました．目指してきたのは，最新の機器を導入することそのものではありません．患者様に自信を持って提供できる「高い品質」と，毎日の診療をより良くする「効率」を，いかに両立させるか．その答えを，臨床の現場で追い求めてきました．

その過程で，私たちは一つの重要な事実に気づかされました．

デジタル技術だけでは，良い義歯はつくれない．

どれほど優れたスキャナーやプリンター，CADソフトが登場しても，最終的な結果を決めるのは，患者様の口腔内を診る力であり，生体を理解する力であり，長年の臨床経験から培われた「人の技術」です．

だからこそ，私はデジタルとアナログを対立させる必要はないと考えています．アナログで培ってきた臨床知をデジタルの力でさらに高める．これこそが，これからの補綴臨床の姿ではないでしょうか．

CAD/CAMによるクラウン・ブリッジがそうであったように，テクノロジーは私たちの臨床を大きく変える力を持っています．そして今，その波が義歯にも押し寄せています．デジタル補綴を牽引してこられた日本臨床歯科CADCAM学会と，義歯臨床の本質を追求してきた有床義歯学会．この二つの学会が，これまで培ってきた知識，技術，経験を持ち寄ることには，大きな意味があります．

本大会が，単なる新しい技術を学ぶ場ではなく，「これからの義歯臨床を，私たちはどう変えていくのか」を共に考え，未来を創る場となることを願っています．

そして今日ここから生まれる新しい知見と挑戦が，日本の，そして世界の歯科医療を変え，一人でも多くの患者様の「食べる喜び」と「笑顔あふれる未来」につながることを心より祈念し，開会の挨拶とさせていただきます．

ご挨拶 実行委員長



医療法人瑛雄会 髙松歯科医院／第12回学術大会 実行委員長

髙松 雄一郎

このたび，一般社団法人日本臨床歯科CADCAM学会 第12回学術大会の実行委員長を拝命いたしました髙松雄一郎です．2026年12月5日・6日の両日，パシフィコ横浜において，有床義歯学会 第11回学術大会との共催で開催いたします．

本大会のテーマは「Co-Creation with CAD/CAM ―CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから―」です．私は2013年に口腔内スキャナーとチェアサイドCAD/CAMを導入しました．それから今日まで，IOSやCAD/CAMは「修復物や補綴装置を作るための機械」から，診断・矯正・予防・訪問歯科・教育などへと役割を広げてきました．北海道の一開業医としてその変化を追いかけるなかで実感したのは，機器の進歩に加え，それを介して歯科技工士・歯科衛生士・歯科アシスタントなどすべての歯科スタッフ，そしてメーカーの方々，さらには患者さんと交わした「対話」が臨床を変えてきた，ということです．共に創る相手は，院内にとどまりません．この実感を一つの言葉にしたものが「Co-Creation」です．

そのため今回のプログラムは，職種や領域を意図して「混ぜる」構成にしました．同じ症例を前にしても，歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士，そして患者さんそれぞれの目に映るものは違います．相手が何を見て，何を必要としているかを知ることが，連携の出発点であり，患者さんや地域社会と共に創る土台です．ご自身の専門とは異なる講演にも，ぜひ足を運んでみてください．

準備にあたっては，実行委員の先生方，両学会の事務局，協賛企業の皆さまに多大なご尽力をいただきました．この場を借りて御礼申し上げます．

もう一つ，二日目には体験型の「Co-Creation Cafe & Sweets」を設けます．画面越しに何でもできてしまう時代だからこそ，せっかく学術大会で顔を合わせるこの機会に，あえて集まり，交わり，繋がる時間を持っていただきたい．講演の合間の立ち話や，カフェでの一杯から，明日の臨床で活用してみたい何かを持ち帰っていただけることを願っています．共に創る二日間を，どうぞお楽しみください．

ご挨拶 神奈川県歯科医師会 会長



公益社団法人 神奈川県歯科医師会 会長

守屋 義雄

日本臨床歯科CADCAM学会第12回学術大会が開催されますことを，心よりお祝い申し上げます.

CAD/CAM技術がもたらす恩恵を真に臨床へ還元するためには，診療に携わる者，技工に携わる者，患者を支える者，さらには技術を提供する企業に至るまで，歯科医療を取り巻くあらゆる立場の者が知見を持ち寄り，共に考え続けることが欠かせません．本学会が，そうした「共創」の理念のもと着実に歩みを重ねてこられたことに，深く敬意を表します.

神奈川県歯科医師会においても，歯科医療を取り巻く環境が急速に変化する中，会員一人ひとりが新たな技術や知見を臨床に取り入れていけるよう，日々模索を続けております．とりわけ地域医療を支える多くの開業医の会員にとって，本大会で示される最新の知見は，明日からの診療をより確かなものにする貴重な指針となるものと考えております.

本学会が今後も研究と臨床を架橋する貴重な学術ネットワークとして発展を続けられますとともに，本大会が実り多きものとなり，参加される皆様のご研鑽とご発展を心より祈念申し上げます.

ご挨拶 横浜市歯科医師会 会長



一般社団法人 横浜市歯科医師会 会長

佐藤 信二

一般社団法人日本臨床歯科CADCAM学会第12回学術大会の開催，誠におめでとうございます．前年と同様にこの横浜の地で盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます．

大会長の北道敏行日本臨床歯科CADCAM学会会長，実行委員長の髙松雄一郎先生はじめ，大会運営に際し，企画・準備段階から今日に至るまで，日々ご尽力されたご関係の皆様に対しまして深甚なる敬意を表します．

今回掲げられたテーマの「Co-Creation with CAD/CAM　CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから」に込められた視点や，CAD/CAMが単なる機械や装置ではなく，「対話」「協働」「価値創出」のための共通言語で，臨床と教育，技術と人，地域と世界をつなぐ架け橋となりうるという捉え方は，わたしたちが直面しているデジタル社会におけるテクノロジーの在り方にも符号し，技術革新による先進歯科医療の推進が，新たな価値の共創，多様なつながりへの広がりをもたらすものと考えられます．

本大会におきまして，歯科医療に携わるご関係の皆様による貴重な情報発信・情報交換が，歯科界全体の発展に貢献し，国民に対して良質でかつ安全な歯科医療を提供することにより，国民の健康増進に寄与されることと存じます．

貴会の今後ますますのご発展と，ご参画ご参加の皆様方のご健勝をお祈り申し上げ，ご挨拶とさせていただきます．

座長：中井 巳智代・河野 充子



The K-Digital Way: How We Build Clinical Excellence through Digital Scanning

李 采娟（Lee, Chae-Yeon）
Seoul HighAn Dental Clinic（Gwangjin Branch）　歯科衛生士

本講演では，デジタルスキャニングを臨床現場に安定して導入・運用するための，実践的な運用フレームワークをご紹介します.

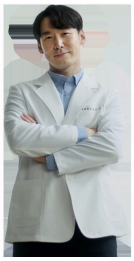
口腔内スキャンの標準化されたプロトコル，歯科衛生士向けの段階的なトレーニングプログラム，スキャン品質の管理，効果的なデジタルワークフローの運用について解説します.

参加者の皆様には，これらの仕組みが臨床の効率性だけでなく，患者体験全体をどのように向上させることができるのかを学んでいただきます.

また，実際の臨床症例をもとに，デジタルチームが効果的に連携しながら，安定したスキャン品質と予測可能な臨床結果を維持するための運用戦略についてもご紹介します.

略歴　2019年　慶東大学校（Kyungdong University）歯科衛生学科 卒業
2019年～現在　Seoul HighAn Dental Clinic（ソウル・広津（クァンジン）院） 歯科衛生士
2022年～現在　韓国デジタル歯科学会 歯科衛生部門 理事
2023年～現在　Seoul HighAn Dental Clinic（ソウル・広津院）臨床チームリーダー

座長：北道 敏行・髙松 雄一郎



The K-Digital Way: How We Run a High-Performance Digital Clinic

張 根榮（Jang, Keun-Young）
Seoul HighAn Dental Clinic（Gwangjin Branch）院長　歯科医師

デジタルデンティストリーは，もはや選択肢ではなく，必要不可欠なものとなっています．しかし，多くの歯科医院では，依然としてデジタル化・デジタルトランスフォーメーションに苦労しています．

過去7年間，私たちはすべての診療チェアに口腔内スキャナーを導入し，臨床ワークフローを再設計することで，医院のデジタル化を進めてきました．

この取り組みによって，高い効率性と一貫性を備えたデジタルクリニックを構築することができました．

本講演では，歯科医院のデジタルトランスフォーメーションを実現するための実践的な戦略をご紹介します．

さらに，トヨタ生産方式（Toyota Production System），スターバックスのサービスオペレーション，ホテルマネジメントの考え方が，どのように高パフォーマンスなデジタルクリニックの構築に活用できるのかを解説します．

略歴　2005年　ソウル大学校歯学部 卒業
2006～2009年　ソウル大学歯科病院 歯周病学レジデント
2013年～現在　Seoul HighAn Dental Clinic（ソウル・広津（クァンジン）院） 院長
2013年～現在　韓国インプラント歯科学会（KAID） 理事
2022年～現在　韓国デジタル歯科学会 理事

12/6［日］ 9:00～10:20 | 会場：502

座長：堀 良彦・山口 圭輔



デジタルインプラント治療の科学的現在地を理解する

黒嶋 伸一郎

北海道大学大学院 歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯・インプラント再生補綴学教室 教授　歯科医師

口腔インプラント治療は，歯や歯列の欠損を回復して機能性や審美性を向上させる予知性の高い補綴歯科治療選択肢のひとつである．近年では患者年齢によらず，世界中で口腔インプラント治療が増加しており，今後も治療数とインプラント体埋入本数の増加が予想されている．

一方，口腔インプラント治療を含む歯科治療にデジタル技術が導入されているが，デジタル技術は，特にクラウン・ブリッジ治療や口腔インプラント治療との親和性が極めて高いと考えられる．検査，診断，治療計画立案，インプラント体埋入支援，光学印象，光学咬合採得，CAD/CAM技術，Additive Manufacturing（AM；付加造形）技術，ならびにインプラント支持型上部構造製作をシームレスに連動・連結することで，歯科治療の高精度化，技工作業時間短縮化，費用対効果向上化，ならびに患者・職種間における治療フローの可視化などに大きく貢献しているように見える．ところが，デジタル技術を応用した歯科治療の有効性は，患者の口腔内状態，歯科医師の知識と経験，歯科医院の設備，院内歯科技工士配置の有無などに極めて強く依存していると思われる．また，デジタル技術の急速な発展と，たくさんの歯科医師によるデジタル技術を応用したさまざまな治療術式の提案が，私達歯科医師と歯科技工士を大きく混乱させている．

そこで本教育講演では，口腔インプラント治療に焦点を当て，デジタル技術を応用したインプラント治療の最新科学的情報をご提供させていただく．皆さんが良かれと考えて行っている治療術式にどこまでのエビデンスがあるのかを，一度立ち止まって良く考える機会としたい．また，北海道大学病院において，AM技術を応用した歯科治療がどのように行われているかも合わせてお話させていただければと思う．

略歴
2002年　北海道大学歯学部歯学科 卒業
2005年　日本学術振興会特別研究員（DC2）
2006年　北海道大学大学院歯学研究科博士課程　修了［博士（歯学）］
2006年～2011年　北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学講座高齢者歯科学教室　助教
2010年～2012年 ミシガン大学歯学部生体材料科学講座補綴科 客員助教・リサーチフェロー
2012年～2014年　長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔インプラント学分野 助教
2014年～2018年　長崎大学病院口腔・顎・顔面インプラントセンター 講師
2018年～2024年 長崎大学生命医科学域（歯学系）口腔インプラント学分野 准教授
2024年～2025年　北海道大学大学院歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯補綴学教室 教授
2024年～現在　長崎大学 客員教授
2025年～現在　北海道大学大学院歯学研究院 口腔機能学分野 冠橋義歯・インプラント再生補綴学教室 教授

JSCAD トレーナー育成スタートアップコース

伝える力で，未来を変える

講師
菅原 舞子 Maiko Sugawara
日本臨床歯科CADCAM学会
認定指導歯科衛生士

レクチャラー
江本 正 Sei Emoto
日本臨床歯科CADCAM学会
理事長

レクチャラー
井上 高暢 Takanobu Inoue
日本臨床歯科CADCAM学会
認定医

レクチャラー
熊谷 俊也 Toshiya Kumagai
日本臨床歯科CADCAM学会
指導医

日本臨床歯科CADCAM学会は，2007年よりISCD(International Society of Computerized Dentistry)の日本支部として活動し，学会会員も臨床家として日々研鑽を積み，新しい技術の習得とブラッシュアップに努めてまいりました．本学会も認定制度を制定することで，臨床家のスキルアップに貢献してまいりました．

昨今，デジタルデンティストリーの分野は世界的に目覚ましい進歩を遂げ，システムやマテリアルが大きく変化しています．日本においては，独自の健康保険制度内におけるCAD/CAM治療の登場と発展が，この分野の進化を決定づけています．

我々個々の臨床スキルと同様に，その技術を正確に次世代へ「伝えていく」教育スキルも極めて重要です．しかし，「臨床のスキル」と「教育のスキル」は似て非なるものです．

これまで，インストラクターとしての教育システムは，ISCD主催のITC(International Trainer Course)を受講し，国際公認インストラクターの資格を取得することが主流でしたが，日本の保険制度内におけるCAD/CAM治療の発展に伴い，日本の制度に沿った教育コースの必要性が高まっています．そこで，この度，日本版ITCコースの立ち上げに先立ち，そのスタートアップコースを企画いたしました．

本コースでは，指導者として必要な教育スキルに焦点を当て，以下の3点について集中的に学習します．

1. **受講者の学習効果を高めるためのテクニック：**参加型の学習を促し，理解と定着を深めるためのファシリテーションスキル．
2. **プレゼンテーションの方法：**受講者を引きつけ，情報を効果的に伝えるための構成や表現技術．
3. **AIを活用したプレゼンテーション作成：**AIを活用したスライド作成や資料構成の効率化など，教育現場における新しいプレゼンテーション手法．

本コースでは，当学会認定指導歯科衛生士である菅原舞子先生をお招きし，数多くのセミナー開催経験に基づいた豊富な知見をレクチャー形式でご提供いただきます．さらに今回は，数多くのセミナーでご活躍の江本正理事長からレクチャーの基本ルールを学び，加えてAIについて造詣の深い井上高暢先生よりAIをいかにプレゼンテーション作成に活用していくかのショートレクチャーをいただき，従来の教育手法に加え，最新のデジタル技術を取り入れた効果的な情報伝達についても学びます．

レクチャー後には，ワークショップ形式で各グループに分かれてディスカッションを行い，その結果を発表していただくことで，実践的な教育スキルを身につけます．

本コースは，認定医から指導医へのステップアップ，指導医のブラッシュアップを目指す方，あるいは将来的に教育活動を志すどなたでもご参加いただけます．

多くの先生方のご参加を心よりお待ち申し上げております．

※ 定員制・事前申込

12/5［土］ 13:00 ～ 14:30 ｜ 会場：502

座長：岸 輝樹・前川 泰一



誰も取り残さない歯科医療へ

―医療MaaSとデジタルデンティストリーが拓く未来―

長縄 拓哉

歯科医師・医学博士・現代美術作家／オーガイホールディングス株式会社代表取締役副社長

「誰も取り残さない歯科医療」とは，誰のための医療なのだろうか．

その対象は，医療過疎地域やへき地，離島に暮らす人々だけではない．仕事に追われ受診の時間が取れないビジネスパーソン，子育てに忙しい保護者，医療や健康に関心を持つ機会が少ない人々など，「病院で待っていても出会えない人」が数多く存在する．そうした人々は，自覚症状がないまま口腔疾患を進行させ，やがて重症化してから医療につながることが少なくない．

これからの歯科医療に求められるのは，「どう治療するか」だけではなく，「どう出会うか」という発想である．

本講演では，訪問歯科診療や歯科遠隔医療に加え，歯科医療MaaSによる離島診療・歯科検診，オフィス街やスポーツイベントなど生活空間へ医療を届ける新しい取り組みを紹介する．また，ゲームや現代アートなど異分野の手法を活用し，医療に無関心な人々のヘルスリテラシー向上や行動変容を促す実践についても報告する．

口腔内スキャナー，デジタルデンチャー，AI，3Dプリンターなどのデジタルデンティストリーは，それ自体が目的ではなく，人と医療をつなぐための手段である．医療MaaSと組み合わせることで，歯科医療は「病院で待つ医療」から「人々の生活の場へ届ける医療」へと進化していく．

本講演では，医療・行政・企業・地域社会が連携した実践事例を通して，デジタルデンティストリーと医療MaaSが切り拓く新たな歯科医療の可能性と，「誰も取り残さない歯科医療」の未来について展望する．

略歴　1982年愛知県生まれ．2007年東京歯科大学卒業．2012年デンマーク・オーフス大学客員研究員．2024年デジタルハリウッド大学大学院中退．歯科医療，デジタルテクノロジー，遠隔医療，モビリティ，アートを融合した新しい医療モデルの構築をライフワークとし，医療MaaS，歯科遠隔医療，デジタルデンティストリーの社会実装に取り組む．また，現代美術作家として「アートによるヘルスリテラシーの向上」をテーマに活動し，大阪・関西万博EXPOホールでの個展開催をはじめ，医療とアートを融合した作品を国内外で発表している．

役職

日本遠隔医療学会 歯科遠隔医療分科会 会長
日本口腔顔面痛学会 評議員・診療ガイドライン委員・慢性疼痛診療ガイドライン委員
日本口腔内科学会 代議員
厚生労働省 教育訓練プログラム開発事業 メディカルイノベーション戦略プログラム委員
千葉大学 遠隔医療マネジメントプログラム委員

受賞歴

2015年　IADR（ボストン）Neuroscience Award
2021年　モダンアート展 入選（東京都美術館）
2024年　Independent 審査員特別賞（徳光健治賞）

著書

『医療介護の現場で役立つベーシックオーラルケア』（クインテッセンス出版）
『歯科オンライン診療の現在』（インターアクション株式会社）ほか

座長：岸 輝樹・前川 泰一



100人の入れ歯難民を救え

―誰も取り残さない歯科医療エコシステムの実現へ―

野田 真一

オーガイホールディングス株式会社 代表取締役社長／一般社団法人歯科デジタルリモート支援協会 代表理事／株式会社フィールトラスト / デンスマイルラボ 代表取締役社長

日本では超高齢社会の進展に伴い，「入れ歯が合わない」「通院できない」「治療を諦めている」といった“入れ歯難民”が全国に存在している．また，歯科技工士不足や地域医療格差の拡大により，必要な歯科医療が必要な人へ届かないという課題が深刻化している．

私は，45年間歯科技工士として働いた父が，デジタル技術によって再び自分の口で食べられるようになり，最期まで食事を楽しむことができた経験をきっかけに，この課題に向き合うようになった．

現在，「100人の入れ歯難民を救え」プロジェクトを通じて，歯科医師，歯科技工士，歯科衛生士がチームとなり，歯科医療MaaSを活用して全国各地の通院困難者へ歯科医療を届ける取り組みを進めている．口腔内スキャナー，デジタルデンチャー，3Dプリンター，遠隔歯科支援といったデジタル技術は，そのための手段の一つに過ぎない．

本講演でお伝えしたいのは，「技術」そのものではなく，それらをどのように組み合わせ，地域や人をつなぎ，持続可能な仕組みとして社会実装していくかという視点である．

これからの歯科医療には，歯科医師や歯科技工士だけでなく，歯科衛生士，行政，自治体，企業，モビリティ，デジタル技術が相互に支え合う“エコシステム”の構築が求められている．そして，歯科技工士もまた，そのエコシステムを支える重要なインフラの一部である．

本講演では，「100人の入れ歯難民を救え」プロジェクトの実践事例を通じて，誰も取り残さない歯科医療の未来像と，デジタルデンティストリーが果たすべき社会的役割について考察したい．

略歴　IT企業を経営する傍ら，歯科技工士である父の「食べられない苦しみ」を原体験として，デジタルデンティストリーの社会実装に取り組む．デンスマイルラボの運営を通じ，デジタルデンチャー，口腔内スキャナー，3Dプリンターを活用した新しい歯科技工モデルを構築．
現在は，歯科医療MaaS「O-Gai」を中心に，通院困難者や過疎地域，高齢者施設への歯科医療提供体制の構築を推進．遠隔歯科，デジタル歯科検診，旅する歯科衛生士プロジェクトなど，歯科医療従事者の新たな働き方の創出と地域医療格差の解消を目指し，行政・自治体・企業との共創による「誰も取り残さない歯科医療エコシステム」の実現に取り組んでいる．

座長：小室 暁・小林 健一郎



歯科用CBCTの原理から知る有効性とその限界

The Efficacy and Limitations of Dental CBCT Based on the Principles

新井 嘉則　Yoshinori Arai

日本大学歯学部歯科放射線学講座 研究特命教授

歯科用CBCT（Cone Beam Computed Tomography）は1997年に日本大学歯学部付属歯科病院で臨床研究が開始され，歯科におけるデジタル化の一つの起点となった．その間，IOS(intra Oral Scan)やFace Scanの開発や普及がすすみ，これらをFusion（統合）することによって総合的な診断をデジタルで実施できる時代となった．さらに，AI（人工知能）の発展がそれらを加速している．

これらを統合する上で，それぞれのモダリティの利点と欠点を把握して，お互いの欠点を補完しあうことが重要と考えられる．そこで，本講演では歯科用CBCTの画像再構成の原理から解説を行う．画像再構成に関しては，シミュレーションソフトを使用し，動画を用いることで直感的に理解できるようにした．特に問題となる，１）金属アーチファクト，２）X線のビームハードニング，３）コーン角によるアーチファクト，４）CT値の誤差要因に関して，その原因と低減方法について理解を深める．

また，X線による被曝に関しても基本的な考え方を示す．放射線をできるだけ有効に活用することで，最小限の被曝線量で最大限の有効な情報を得るようにしたい．そのために必要とされるのは，診断目的に応じた最適な“画素”や“FOV（Fild Of View：撮像範囲）”のサイズ設定である．根管治療などの微細な構造を観察するには直径4㎝から3㎝の小さいFOVが選択される．頭蓋骨全体の形態の把握には直径15㎝程度の大きなFOVが選択される．特に，大きなFOVを選択した場合は，一般的なX線規格撮影（セファロ）に比較して100倍程度の被曝線量となることから，“撮影の頻度”についても留意が必要となる．

最後に先端のトピックスに関しても情報提供をしたいと考える．

略歴
1988年 日本大学大学院歯学研究科 修了
1997年　歯科用CBCTの開発
2001年 日本歯科放射線学会特別賞 受賞
2003年 科学技術政策担当大臣賞　受賞
2004年 松本歯科大学大学院　硬組織疾患制御再建学講座　教授
2007年 文部科学大臣発明奨励　受賞
2008年 日本大学歯学部　特任教授
2025年 日本大学　研究特命教授　（歯学部歯科放射線学講座）
現在に至る

座長：小室 暁・小林 健一郎



Diagnosis First

―包括的歯科治療におけるデジタル活用―

永田 裕保　Hiroyasu Nagata

永田矯正歯科院長／日本歯科専門医機構認定矯正歯科専門医／日本矯正歯科学会臨床医／近畿東海矯正歯科学会会長／大阪大学歯学部歯科矯正学講座同友会会長

近年，口腔内スキャナー，CBCT，CAD/CAM，アライナー矯正，AIを用いたセットアップなど，歯科医療のデジタル化は急速に進展している．しかし，デジタル技術は診断そのものを代替するものではなく，適切な診断と治療計画のもとで初めて有効な手段となる．本講演では「Diagnosis First」をキーワードに，包括的歯科治療におけるデジタル活用の意義と限界について考察する．

歯科医師は口腔内や個々の歯に注目しがちであるが，治療計画には顔貌，口元，スマイル，骨格，咬合平面を含めた全体的評価が必要である．長期間放置された欠損症例では，対合歯の挺出，隣在歯の傾斜，Spee curveの深化など，歯列全体に変化が生じていることが多い．これらを評価せず欠損部のみにインプラントや補綴処置を行えば，不適切な咬合状態を固定化する可能性がある．

包括的歯科治療では，局所の状態から各歯の保存可能性を判断するBottom-upの診断と，顔貌・骨格・咬合を俯瞰して最終ゴールを設定するTop-downの治療計画を，高いレベルで融合させることが重要である．検査・診断後には，外科的矯正治療，カムフラージュ治療，矯正・補綴・インプラントの介入範囲など，可能な限り複数の治療プランを立案し，侵襲性，治療期間，安定性，費用，患者の希望を踏まえてゴールを共有する．

骨格性不調和を有する症例では，外科的矯正治療が根本的改善につながる場合がある．ProPlan CMFを用いた術前シミュレーション，デジタルセットアップ，サージカルスプリント作製は，治療ゴールの可視化と矯正・補綴・口腔外科間の連携に有用である．一方，AIやソフトウェアが提示するセットアップは治療方針そのものではなく，最終的な判断と責任は歯科医師にある．AI時代だからこそ，全顎的診断に基づく治療戦略，すなわち「Diagnosis First」の姿勢が求められる．

略歴
１９９１年 大阪大学卒業，矯正学教室入局
１９９７年 日本矯正歯科学会認定医
１９９９年 永田矯正歯科開業
２００８年 日本矯正歯科学会　専門医
２０１３年 大阪大学歯学部歯科矯正学講座同友会　会長
２０１６年 第５８回近畿東海矯正歯科学会　大会長
２０２２年　近畿矯正歯科研究会　会長
２０２４年　日本歯科専門医機構認定矯正歯科専門医/日本矯正歯科学会認定医委員会　審査員/　大正区歯科医師会副会長
２０２６年　近畿東海矯正歯科学会　会長/日本矯正歯科学会理事/日本矯正歯科学会臨床医委員　会　審査員

座長：小室 暁・小林 健一郎



CAD/CAMと共に創るインプラント治療と矯正歯科

Co-creation with CAD/CAM for implant treatment and orthodontics

草野 薫　Kaoru Kusano

大阪歯科大学 歯学部 口腔インプラント学講座 教授

人工歯根型インプラント治療は臨床応用から半世紀以上が経過し，インプラント植立後の10年生存率が98%を超えると報告されている．しかし，その高い生存率は好条件の顎骨環境が背景にあると言える．近年ではCBCT，口腔内スキャナ（IOS），フェイススキャナーなどのCAD/CAM・デジタル技術の発展により，高精度なトップダウントリートメントを可能とし，安全性および確実性の高いインプラント治療が実現させている．

一方で，インプラント治療は外科・補綴の枠組みを超え，矯正歯科との密接な連携が不可欠な領域へと発展している．特に先天性欠如歯患者では，外側性に骨が欠損するのみならず，廃用性萎縮による骨質低下のみられる症例にもたびたび遭遇する．先天性欠如歯や骨量不足症例においては，矯正歯科医とインプラント専門医の協働による治療計画が重要となる．

近年では補綴主導型に加え，顔貌主導型の概念も広く定着し，最終補綴および顔貌の調和を見据えたインプラントポジションの設定が求められている．しかしその実現には，矯正治療との時間的・空間的調和が不可欠である．矯正歯科医にもインプラント治療の基礎を知って頂き，インプラント体埋入のタイミング（矯正前・矯正中・矯正後）や，骨造成の必要性，術式選択ならびに材料学的な種類や特性をも熟知する必要がある．さらにその介入時期の判断が治療結果を大きく左右する可能性があることは否定できず，これらは症例ごとに異なり，より複雑な意思決定が求められる．

本講演では，メインテーマの「CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから」を主軸に，CAD/CAMと共に創るインプラント治療と矯正歯科と題し，インプラント専門医と矯正歯科医との連携に焦点を当て，複雑化する矯正歯科・インプラントの治療計画をどのように整理・最適化すべきかについて，最新の知見を交えて考察する．

略歴

1997年3月　北海道医療大学歯学部　卒業
1997年4月　京都府立医科大学附属病院　医員
2004年3月　北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程（口腔病理学）修了
2004年4月　北海道医療大学　口腔外科学一講座　助手
2007年4月　北海道医療大学　顎顔面口腔外科学分野　助教
2007年10月　The University of British Columbia, Visiting assistant professor
2008年9月　Vancouver General Hospital, Visiting assistant professor
2012年8月　北海道医療大学　顎顔面口腔外科学分野　講師
2018年4月　大阪歯科大学　口腔インプラント学講座　准教授
2019年10月　大阪歯科大学附属病院　口腔インプラント科　科長　（現職）
2022年4月　大阪歯科大学　歯学部　口腔インプラント学講座　教授　（現職）

座長：木田 智久



子どもの未来を可視化する口腔内スキャナー

―形態と機能から成長を支える小児歯科―

Visualizing Children's Future with Intraoral Scans

岩寺 信喜　Nobuki Iwadera

岩寺小児歯科医院・南郷通り子ども歯科 院長／日本小児歯科学会専門医・指導医／全国小児歯科開業医会理事

口腔内スキャナー（IOS）は，補綴治療やCAD/CAM，矯正歯科領域を中心に急速に普及している．一方，小児歯科におけるIOSの価値は，単なるアルジネート印象の代替にとどまらない．小児歯科では，成長・発育という時間軸の中で，現在の口腔内の状態を評価し，将来を見据えながら必要に応じて介入していくことが求められる．そのためには，歯列，咬合，口蓋形態などを規格化して継続的に記録することが重要である．従来，診断用模型はこれらの情報を三次元的に記録する有用な資料であったが，印象採得，模型製作，保管などの負担から，日常臨床で経年的に蓄積することは容易ではなかった．IOSを用いることで，子どもの負担を軽減しながら三次元的な形態情報をデジタルデータとして保存し，歯列弓幅径，歯列弓長径，萌出，咬合，叢生，口蓋形態などの変化を経時的に比較することが可能となる．また，形態を記録することは，将来の咬合を考えるだけでなく，舌，口唇，咀嚼，嚥下，呼吸などの機能に目を向けるきっかけにもなる．本講演では，小児歯科におけるIOSの有用性について文献と臨床例を交えて考察し，形態と機能の両面から子どもの成長を支えるためのIOS活用について紹介する．

略歴
2007年　日本歯科大学 生命歯学部 卒業
2013年　北海道大学大学院 卒業
（小児・障がい者歯科学）
2013年～　岩寺小児歯科医院
2019年～　南郷通り子ども歯科

座長：佐久間 利喜



訪問歯科の未来を拓くDX戦略／IOSとデジタルカルテのメリット・デメリットから考える地域連携

The Future of Home-Visiting Dentistry through DX Strategies / Pros and Cons of IOS and Digital Dental Records in Community Care

續木 アナスタシア

こばやし歯科クリニック訪問部副部長，歯学博士

こばやし歯科クリニックでは，年間約1.5万人患者の訪問診療を手掛けており，その部門規模は年々拡大傾向にある．訪問診療は一般的な歯科治療と異なり，医療保険と介護保険の重複算定を要するため，カルテ入力にとどまらず膨大な書類管理を伴う．事業の拡大に伴い，診療機材のみならず，カルテや管理計画書，請求書等の書類保管場所の確保が課題となっており，業務プロセスのデジタル化（DX）が不可欠であると感じている．

訪問歯科におけるDX活用できる領域は，主に以下の3点に集約される．

第一に，口腔内スキャナーの活用による作業効率化とコスト削減である．当院では訪問診療において「SHINING 3D」口腔内スキャナーを運用しており，保険適用のCAD/CAM冠・インレーや個人トレーの印象採得を行っている．従来の印象材や石膏の準備・硬化時間を短縮できる上，訪問先を汚染するリスクを大幅に軽減できる．

第二に，書類作成および情報管理の一元化である．当院が導入している予約管理システム「PLUM（NNG株式会社）」は診療情報の管理機能も備えており，急患対応時においてもタブレット端末を介して即座に患者情報へアクセスすることが可能となった．

第三に，関係者間におけるコミュニケーションの質的向上である．スキャナーで取得した3次元データを提示することで，患者の家族やケアマネジャー，介護スタッフに対し，口腔内の状態やケアの手が届いていない部位を視覚的に明瞭に共有できる．

患者情報のデジタル化に伴うセキュリティ確保や安全管理体制の構築は今後の重要課題であり，また現状では歯科分野に対応したソフトウェアの選択肢が限られている点も否めない．しかしながら，多職種連携の円滑化がもたらす便益は非常に大きく，今後のDXツールのさらなる開発と発展が待たれる．

略歴　ベラルーシ出身．ベラルーシ国立医科大学を卒業し，約6年間母国で主に口腔外科医として勤務．東京科学大学に留学するため来日．博士課程修了後，日本の歯科医師免許取得．2019年からこばやし歯科クリニックで勤務．現在は主に訪問診療を担当している．
日本老年歯科医学会　専門医
日本摂食嚥下リハビリテーション学会　認定士
日本臨床歯科CADCAM学会　会員

座長：辻 展弘



顎運動のデジタル化がもたらす次世代CAD/CAM臨床の実際

Actual Clinical Application of Next-Generation CAD/CAM Dentistry Driven by Digitalized Jaw Movement

中島 航輝 Kouki Nakajima

明海大学歯学部クラウンブリッジ補綴学分野 客員准教授／昭和医科大学歯学部歯科補綴学講座 兼任講師

歯科補綴学および咬合論の歴史において，下顎運動の再現性は常に修復物・補綴物の予後と臨床的成功を左右する核心的テーマであった．かつて平均値咬合器から全調節性咬合器への進化を経て，機械的メカニズムにより生体の複雑な咬合挙動を模倣する試みが長年にわたり積み重ねられてきた．そして今日，口腔内スキャナー（IOS）やCAD/CAMシステムの急速な普及により，歯科修復治療はデジタル主導の新たな時代へと突入している．

しかし，従来の一般的なデジタルワークフローでは静的な咬合関係の取得が主流であり，患者固有の動的な咬合接触関係や下顎頭の運動軌道を補綴装置のCADデザインに完全かつ精確に反映させる点においては，一定の制約が存在していた．この課題を劇的に解決するのが，最新のデジタル顎運動（ジョーモーション）キャプチャ技術である．

本講演では，3Dフェイススキャナー「MetiSmile」によるフェイススキャニングと下顎動態の包括的なデジタル統合，および最新IOSに搭載されたジョーモーション機能を併用したリアルタイムな顎運動データの取得法について詳述する．これにより，従来の機械式咬合器ではトランスファーが困難であった動的偏位軌道を，非侵襲的かつ高精度に三次元データ化することが可能となった．

さらに，取得したジョーモーションデータをCADソフトウェア「exocad」へインポートし，バーチャル咬合器上で動的干渉を事前に視覚化・修正しながら進める高度な補綴デザインの実践アプローチを臨床症例とともに提示する．臨床での適合精度向上と咬合調整時間の劇的な削減効果についても論じたい．

咬合器の歴史的変遷と伝統的咬合論の知見を踏まえ，顎運動のデジタル化が切り拓く次世代CAD/CAM臨床の真価とその実践的展開について提示する．

略歴
2003年　明海大学 歯学部卒業
2003年　東京医科歯科大学大学院 博士課程入学(クラウンブリッジ補綴学)
2006年　日本顎咬合学会 特別新人賞　受賞
2007年　東京医科歯科大学大学院 修了 歯学博士
2008年　医療法人社団世航会 設立
2020年　日本大学医学部大学院　博士課程入学(分子細胞生理学分野)
2025年　日本大学医学部大学院修了　医学博士
2025年　昭和医科大学歯学部　歯科補綴学講座兼任講師
2025年　日本顎咬合学会ジーシー賞受賞
2026年　明海大学歯学部 補綴学講座 客員准教授

12/5［土］ 15:00 ～ 16:20 | 会場：502

座長：相澤 正之・竜 正大



DigitalとSuction Dentureの融合

Integration of Digital Technology and Suction Denture Fabrication

佐藤 勝史 Katsushi Sato

佐藤歯科医院 ラ・フランス オフィス

近年, 歯科領域におけるデジタル技術の導入は急速に進展しており, 有床義歯製作においても多様なデジタルワークフローが開発されている. デジタル技術の導入により, 義歯床粘膜面の適合精度の向上, 治療時間および来院回数の短縮, 歯科技工工程の効率化, 作業環境の改善, さらにデジタルデータの保存による義歯再製作の容易化など, 多くの利点が期待されている. 一方, 有床義歯のデジタル製作技術は発展途上にあり, 材料特性, 臨床的有効性および長期的予後については, 今後さらなる検証が必要である. しかし, 技術革新, 保険収載の開始, 3Dプリント技術や新規材料の開発を背景に, デジタル有床義歯製作は今後さらに発展すると考えられる.

また, 歯周病治療の進歩, 無歯顎となる年齢の高齢化, 平均寿命の延伸などを背景として, 高度に吸収した下顎顎堤を有する無歯顎患者に対する補綴治療の重要性が増している. 下顎高度顎堤吸収症例では, 顎堤による支持・維持が得られにくく, 義歯の動揺や脱離を生じやすいため, 安定した総義歯の製作が困難な場合が多い. そのため, 義歯床の適合性を高めるとともに, 口腔内の解剖学的・機能的条件を考慮し, 適切な辺縁封鎖による「吸着」を獲得することが重要となる.

そこで今回, 下顎高度顎堤吸収症例の特徴とその対処法について概説するとともに, これらの臨床的要件を考慮した, デジタル技術を応用した「吸着」下顎総義歯の製作法について紹介する.

略歴

◎おもな役職・研修会

日本顎咬合学会常任理事 指導医 元東北支部支部長
有床義歯学会 (JPDA:Japan Plate Denture Association) 理事 指導医
JCPG(日本臨床歯周療法集談会)理事　GC総義歯セミナーインストラクター
リヒテンシュタインにてBPS Dentistの認証を取得　勝史塾主宰

◎おもな著書

『What is Suction Denture?』(デンタルダイヤモンド社，2014)著
『This is Suction Denture!』(デンタルダイヤモンド社，2017)著
『Suction Denture パーフェクトガイド』(デンタルダイヤモンド社，2017)編著
(上記3冊は韓国語訳書籍・ロシア語訳書籍としても発刊)
『“Questions!”about Suction Dentures.』(デンタルダイヤモンド社，2021)著 (韓国語訳書籍としても発刊)
『Ultimate Suction Denture！』(デンタルダイヤモンド社，2024)著

座長：片山 慶祐・永田 翔大



歯科衛生士がサポートする口腔内スキャナーの運用と長期管理

Dental Hygienists Supporting the Clinical Workflow and Long-Term Management of Intraoral Scanner–Based Dentistry

加藤 正治　Shoji Kato

高輪歯科／日本接着歯学会 理事，接着歯科治療専門医，指導医

口腔内スキャナー(以下，IOS)は，デジタル化によって診療そのものに変革，すなわちDX（デジタルトランスフォーメーション）をもたらすデバイスとして表現される．歯科衛生士はまさにDX推進の担い手であり，さまざまな工夫によって診療室に多くの好循環をもたらしている．そこで今回は，歯科衛生士がサポートするIOS運用とCAD/CAM修復の長期管理について理解を深める機会としたい．

本来，歯科衛生士には「オーラルヘルスレコード」として記録を採取するという重要な役割がある．その意味においてIOSによって蓄積されたデータは，衛生士業務に多くの恩恵をもたらす可能性を秘めている．たとえば代表的な運用事例として，スキャンデータを用いたブラッシング指導，そして予防・矯正・ホワイトニングにおけるモニタリングなどが注目されている．とくに，患者とのコミュニケーションの場面では，従来の口腔内写真や検査結果による説明に加え，タブレットを用いてスキャンデータを併用することで，患者本人の口腔内の3次元的認識を高める効果が期待できる．また，スマートフォンとのデータ共有もホームケアの向上に有効な手段となるであろう．

一方，CAD/CAM修復において良好な予後を得るためのサポートとしては，IOSやCAD/CAM材料の特性を考慮したプロフェッショナルケアの提供が不可欠である．歯科衛生士には，スキャン前の歯周ケアはもちろん，ジルコニアに代表されるセラミックス材料からCAD/CAMレジン材料に至るまで，素材とその仕上げ方法に応じた適切なメインテナンスが求められている．「PMTC」の手法も広義の意味で多様化しており，PMTCペーストやジェットポリッシャーなどの医療機器材料の操作についての知識をアップデートしたうえで長期管理を考えたい．

最後に，本講演がデジタル時代の歯科衛生士業務の深化と，今後のIOS診療の発展の一助となれば幸甚である．

略歴
1990年 東北大学　歯学部　卒業
東京都新宿区にて勤務（～1998年）
1991年 民間企業にてセラミックス接着研究に従事（～1997年）
1997年 鶴見大学歯科理工学教室非常勤講師
1998年 高輪歯科 （東京都港区）開設
2015年 日本経済新聞社主催　健康セミナー21，丸の内キャリア塾講師（～2024年）
モスクワ国立第一医科大学特別講師
2018年 韓国歯科新聞　ライター
2020年 モリタ社公認TRIOSテクニカルインストラクター
2025年 朝日新聞社AERA主催　アエラボ講師

座長：河野 充子・濱田 真理子



良質なIOSデータ採得を支える歯科衛生士の役割

―歯科衛生過程に基づく口腔環境管理―

The Role of Dental Hygienists in Achieving High-Quality Intraoral Scan Data Acquisition ― Oral Environment Management Through the Dental Hygiene Process ―

浅野 弥生 Yayoi Asano

株式会社ビビナス 代表取締役／医療法人社団一心会新さっぽろライフ歯科

近年，デジタルデンティストリーの急速な発展に伴い，口腔内スキャナー（IOS）を用いた光学印象採得が臨床現場に広く普及している．補綴物の精密な適合や長期的な予後を担保するためには，歯科医師による的確な診査診断や精密な支台歯形成技術，そして歯科技工士による高度なCAD/CAMデザインおよび補綴装置製作スキルが不可欠である．しかし，それらの専門技術を最大限に活かす前提として，スキャン部位周囲の歯肉に炎症がなく，出血や浸出液が抑制されていること，そして患者自身の徹底したプラークコントロールによって健全な口腔環境が確立されていることが不可欠となる．

この術前の口腔環境管理において，中核的な役割を果たすのが歯科衛生士による「歯科衛生過程」に基づいた体系的アプローチである．歯科衛生過程とは，患者個々の背景を踏まえて問題を解決へと導く専門的な臨床思考プロセスである．具体的には，口腔状態や全身背景，生活習慣を多角的に収集・分析する「アセスメント」から始まり，IOSデータ採得の精度を阻害する歯肉の炎症要因やセルフケアの課題を明確化・言語化する「歯科衛生診断」を行う．これに基づき，印象採得予定日に向けた消炎目標や個別ケア方針を設定する「計画立案」を経て，歯周基本治療などの専門的介入とともに行動変容を促すコミュニケーションや個別指導を行う「介入」を実践する．さらに，マージン部の視認性や歯肉の改善度，セルフケアの定着状況を確認する「評価」を行い，一連のプロセスと結果を「記録」として残すことで，多職種間での円滑な情報共有と強固なチーム医療連携を可能にする．

良質なデータ採得を支えるには，単なる処置にとどまらず，患者自身が主体的にケアへ取り組むための動機づけと信頼関係の構築が欠かせない．本講演では，IOSデータ採得を支える歯科衛生士の多岐にわたる役割を再確認し，歯科衛生過程に沿った実践的な口腔環境管理のあり方を提示する．

略歴

2006年　池見札幌歯科衛生士専門学校卒業
2006年　札幌市内歯科医院勤務
2011年　日本臨床歯周病学会認定歯科衛生士取得
2011年　医療法人社団一心会グループ勤務
2019年　日本スポーツ歯科医学会認定スポーツデンタルハイジニスト取得
2021年　学校法人滋慶学園　札幌看護医療専門学校　教育課程編成委員　就任
2022年　個人事業 VIVINOUS+（ビビナス）開業
2025年　法人化に伴い株式会社ビビナス設立
2026年　学校法人滋慶学園　札幌看護医療専門学校　非常勤講師
2026年　日本臨床歯科CADCAM学会　北海道支部会　歯科衛生士部長就任

座長：河野 充子・濱田 真理子



CAD/CAMセラミックス修復の長期予後を考える

―経年変化を踏まえたメンテナンス戦略―

永田 翔大

医療法人社団徹心会ハートフル歯科医院　歯科技工士／歯科衛生士／事務長

CAD/CAM技術やセラミック材料，接着技術の進歩により，セラミック修復は日常臨床において広く用いられるようになった．しかし，修復物は装着した時点がゴールではない．口腔内ではプラークの付着，咬合の変化，材料や接着界面の劣化などが経年的に生じており，治療後から長期的な管理が始まる．

当院では，歯科衛生士によるメインテナンスを単なるクリーニングではなく，「修復物の健康診断」と捉えている．メインテナンス時にはプラークの有無だけでなく，表面性状，マージン，着色，残留セメント，クラックやチッピング，咬合による変化などを観察し，小さな異常を早期に捉えることを重要視している．これらを，咬合負担や破折などの機能的側面と，プラーク停滞や歯肉炎症などの生物学的側面から評価し，記録・比較・共有することが重要である．

特に接着性セラミック修復では，長期経過の中で接着界面に変化が生じ，それがマージンの変化や脱離，破折などのトラブルとして現れることがある．また，その現れ方は修復材料によって異なる．当院で経験してきた長期経過症例を提示しながら，修復物に生じる経年変化とその前兆について考察する．

さらに，修復物表面を良好な状態に維持するためのバイオフィルム除去や研磨，残留セメントへの対応など，日常のメインテナンスで歯科衛生士が実践できるポイントについても紹介する．

治療のゴールは，修復物を装着することではない．その歯を長期にわたり守り続けることである．本講演を通して，歯科衛生士が「何を除去するか」だけでなく，「何を観察し，どの変化に気づくべきか」という視点を共有し，CAD/CAMセラミック修復の長期予後におけるメインテナンスの役割を考えたい．

略歴

学校法人鶴見歯科学園　横浜歯科技術専門学校歯科技工士科（現学校法人みなとみらい学園　横浜歯科医療専門学校）卒業
マスターセラミストスクール　（現東京デンタルアカデミー）　卒業
新東京歯科衛生士学校　卒業
医療法人社団徹心会ハートフル歯科医院　勤務
歯科技工所　株式会社ハピネスクリエイト　設立
CAD/CAM修復・デジタル治療を中心に臨床に従事し
歯科衛生士向け講演，院内教育，研修に携わる

座長：伊藤 竜馬・飛田 茜



Digital Workflow & Material Selection

浅賀 信寛

AsakaSmartDental 代表取締役／SJCD東京支部

近年，歯科医療におけるデジタルテクノロジーは急速に進歩し，口腔内スキャナー，CADソフトウェア，ミリングマシン，3Dプリンターなど，さまざまなデジタルデバイスが日常臨床に導入されている．一方で，デジタル化すること自体が補綴装置のクオリティ向上に直結するわけではない．それぞれのテクノロジーの特徴と限界を理解し，症例に応じたワークフローを構築するとともに，適切なマテリアルを選択することが重要である．

現在，補綴装置に使用される材料は，ジルコニア，二ケイ酸リチウム，PMMA，3Dプリントレジンなど多岐にわたり，その選択肢は年々増加している．特に近年では3Dプリンティング技術と材料開発が著しく進歩し，プリントレジンの適応範囲や補綴装置製作における位置づけも大きく変化しつつある．

しかし，使用するデバイスや材料が進化しても，形態，色調，表面性状，咬合といった補綴装置に求められる本質が変わるわけではない．むしろ選択肢が増えた現在だからこそ，デジタルとアナログ双方の特性を理解し，それらを適切に組み合わせることが，より予知性の高い補綴装置製作につながると考えている．

本講演では，口腔内情報の取得からCADデザイン，CAMによる製作，キャラクタライズ，研磨，最終装着に至るまでのデジタルワークフローを，実際の臨床症例を通して紹介する．また，各工程におけるポイントと材料選択の考え方を整理するとともに，最新の3Dプリントレジンを用いた臨床ケースを供覧し，その製作プロセス，審美性，表面性状，そして今後の臨床応用の可能性について考察する．

デジタルかアナログかではなく，それぞれの利点を活かしながら，症例に応じた適切なワークフローとマテリアルを選択することが，これからの補綴装置製作において重要である．本講演が，日常臨床におけるデジタルテクノロジーとの向き合い方を再考する一助となれば幸いである．

略歴
2016年　日本大学歯学部附属 歯科技工専門学校 卒業
AsakaSmartDental 開業
2016年 Master Ceramist School（現.Dental Academy Tokyo） S特待
2018年　日本インプラント臨床研究会
Hands-on Course 修了
2019年　Dental Academy Tokyo impiantEX
Course 修了
DIO Digital Academy Korean
Course 修了
2023年　SJCD大阪technician Course 修了
2024年　GPO矯正technician Course 修了
Clinical Enhancement Course 修了
2025年　S.T.F Digital Academy 11期 修了
Comprehensive Dental Technology
Course 修了
2026年　原宿デンタルオフィス非常勤技工士

座長：濱崎 順一・師玉 大志



デジタルデザイン時代における審美補綴製作

島村 亮平　Ryohei Shimamura

新大阪歯科技工士専門学校 専攻科 非常勤講師／大阪セラミックトレーニングセンター 週末コース インストラクター

私が歯科技工士として働き始めてから約10年が経過し，その間，IOSの普及やCAD/CAMの進歩とともに歯科技工を取り巻く環境やラボワークは大きく変化・進化を遂げてきました.

現在では技工作業におけるアナログ工程の割合は年々減少し，歯牙形態を構築するワックスアップ作業においてもデジタルデザインのみで完結するケースが増加しています.

デジタル技工は作業効率や再現性，データマッチング，情報共有など，多くの面で大きな優位性をもたらしています. また補綴装置の外形を決定するデジタルワックスアップにおいても，アナログであれば経験や感覚に頼る部分の多かった工程も，さまざまなデータの可視化や形態のコピーが可能となったことで確実性の高いワックスアップが可能となりました.

しかしデジタルを使用することでクオリティが上がるわけではなく，使用するべき範囲を見極め，使用するための知識やスキルも必要となってきます.

また補綴物に天然歯のような生命感を与えるためには，依然としてアナログによる仕上げの技術が必要不可欠であり，デジタルとアナログは相反するものではなく，それぞれの長所を理解し，適切に使い分けることが重要であると考えます.

本講演では主にモノリシックの補綴装置に焦点を当て，exocadを用いたデジタルデザインの利点を活用したデジタルワックスアップから，CAMによるミリング後，仕上げ工程として行う表面性状や質感などの，補綴装置に生命感を与え口腔内に調和させるためのアナログ手技まで，双方の工程を整理し，それぞれをどのように活用しているのかを，私自身の日常臨床における審美領域を含む補綴製作の流れに沿ってご紹介したいと思います.

略歴
2015年 新大阪歯科技工士専門学校卒業
2016年 大阪セラミックトレーニングセンター全日コース32期修了
2016年 有限会社ゆうデンタル勤務
2019年 大阪SJCD 臨床テクニシャンコース修了
2021年 医療法人タニオ歯科クリニック勤務
2022年 小濱忠一コース インプラント編修了
2023年 小濱忠一コース 天然歯編修了
2025年 新大阪歯科技工士専門学校 専攻科 非常勤講師
2026年 SUNS Dental Laboratory 勤務
2026年 大阪セラミックトレーニングセンター 週末コース インストラクター

有床義歯学会

Japan Plate Denture Association



あなたの
臨床の一歩を、
学会が応援します。

入会申込はこちら

大会参加同時入会で
初年度年会費無料！

有床義歯分野の
歯科技工士の
会員も多数在籍！
総会員数
約1,200名
（2025年現在）

歯科技工士も
一緒に学び、
支え合う学会です！

有床義歯学会とは？

有床義歯学会（JPDA）は、
有床義歯臨床のさらなる発展を目指し、
臨床・研究・教育に関する知識や技術を共有する場、
有床義歯臨床に関わる先生方との交流を通じて、
日々の臨床に役立つ知識を学ぶ場を提供しています。

学会に入ると、こんなことができます

学術大会
有床義歯臨床の
最新知見を学ぶ



講演・定例会
日常臨床に役立つ
知識・技術を学ぶ



交流
義歯の情報交換や
ネットワーク作り



最新技術
デジタル技術など
の最新技術に対応



海外研修
世界中の臨床家
との国際交流



こんな先生におすすめです

技術も知識も
仲間も。
ここにある。

- 義歯臨床をもっと深く学びたい
- 総義歯・部分床義歯の臨床力を高めたい
- 難症例への対応力を身につけたい
- デジタルデンチャーやCAD/CAMに興味がある
- 義歯臨床について他の先生と情報交換したい
- 海外での研修・セミナーに参加してみたい



山崎史晃会長

会員募集中！ 有床義歯学会

有床義歯臨床をさらに学びたい
先生方のご入会をお待ちしています。

会員になると

- 学術大会・研修会への参加
- 最新の知見・情報の提供
- 会員同士の交流・ネットワーク
- 症例・研究発表の機会

入会案内

入会金	5,000円
年会費	12,000円

※詳しくは学会ホームページをご覧ください。

入会の詳細・お申し込みはこちら →

有床義歯学会 事務局
jpda@intervent.co.jp

学会ホームページ
https://www.jpda.dental/contact/

～ 有床義歯の未来を、ともに創る ～

JPDA有床義歯学会

Japan Plate Denture Association



デジタル義歯入門

―従来法全部床義歯 VS プリント義歯 VS ミルド義歯―

前畑 香

ナカエ歯科クリニック 院長／神奈川歯科大学 特任教授

2025年12月に，我が国で初めてデジタルワークフローを用いた3次元プリント有床義歯が保険収載された．保険診療で製作される3次元プリント有床義歯のチェアーサイドワークフローは，トライインデンチャーを用いた仮床試適を除き，概形印象，精密印象および咬合採得が，従来法全部床義歯製作と同様である一方，ラボサイドワークフローは，完全なデジタルワークフローとなった．しかしながら，３次元プリント義歯は従来法全部床義歯と比べ，一見すると簡略化した製作法に見えるが，留意しなくてはならないことが多い．演者は，デジタル義歯治療を行って約６年となるが，口腔内スキャナ（IOS）で取得した義歯スキャンデータをもとに，ＣＡＤソフトウェアを用いて自ら設計し，３Dプリンターを用いて自ら製作した３次元プリント有床義歯を，難症例無歯顎高齢者の全部床義歯治療に応用している．本講演では，従来法全部床義歯とデジタル義歯（プリント義歯およびミルド義歯）の違いを解説するとともに，日々演者がアップデートしながら行っているデジタル義歯治療を提案したい．

略歴
2000年　神奈川歯科大学歯学部 卒業
2006年　ナカエ歯科クリニック 院長
2022年　神奈川歯科大学大学院歯学研究科 歯学博士 取得
2023年　神奈川歯科大学 特任教授
現在　神奈川歯科大学 特任教授
有床義歯学会 理事・指導医
日本補綴歯科学会　専門医
日本デジタル歯科学会　専門医
日本唾液ケア科学会　専門医・評議員



三次元プリント有床義歯を成功に導く製作の注意点

佐藤 大介
株式会社シンワ歯研

近年, 歯科技工分野におけるデジタル化は急速に進展しており, 3Dプリンターを活用した有床義歯製作も臨床応用が広がりつつある. さらに, 三次元プリント有床義歯が保険収載されたことで, 今後その活用はさらに拡大していくことが予想される.

三次元プリント有床義歯は, 模型や印象体をスキャンして得られたデジタルデータをもとに, CADによる義歯設計, 3Dプリント, 洗浄・重合, 研磨などの工程を経て完成する. 製作工程の効率化や再現性の向上が期待できる一方, 安定した結果を得るためには, 各工程における適切な判断と操作が求められる.

特に, 義歯製作に必要な患者情報を適切に取得し, 義歯床外形や人工歯排列, 床の厚みなどのCAD設計に反映することが重要である. さらに, 造形方向やサポートピンの設定などのCAM工程に加え, 材料管理, 洗浄・重合などの各工程を適切に行うことが, 義歯の適合や強度, 完成精度に影響する.

また, デジタル化された製作工程の中では, アナログ工程が見落とされがちである. 歯科医師側では咬合採得, 排列試適, 咬合調整などの臨床工程, 歯科技工士側では人工歯の接着や研磨などの技工作業があり, これらを適切に行うことも, 三次元プリント有床義歯を成功に導くうえで欠かすことができない.

本発表では, 保険収載後の三次元プリント有床義歯のワークフローを整理し, 患者情報の取得, CAD設計, CAM工程, 3Dプリントおよびアナログ工程における製作上の注意点について, 臨床例を交えて報告する.

略歴　2008年　明倫短期大学　卒業
株式会社シンワ歯研入社

部分床義歯製作の実践的アプローチ：アナログとデジタルの優位性を工程別に整理する



中野 進也
株式会社ジョイクリエイト 代表取締役



今田 裕也
株式会社協和デンタルラボラトリー

昨今，デジタルの発展・進化により歯科業界の働く環境やワークフローが様変わりしたのを感じている．

我が国の社会問題である「人材不足」においてデジタルワークフローにより作業の効率化や簡略化が促進され，誰でも・早く作業ができるようになることは，明るい傾向だと思われる．

特に，若手のデンチャー製作者が少ない中で，デジタルデンチャーの発展・進化は，一つの希望ですらあるように思われる．

それに伴い，先人から脈々と受け継がれたアナログワークフローの良さ（細部へのこだわりやモノ作りの楽しさ）も再評価されているように思われる．

部分床義歯は歯科補綴物の中でも３つの構成要素（金属フレーム・人工歯・レジン床）で最も多く，フルデジタルワークフローにおいては臨床的な域においては現実的ではないように思われる．

そこで本講演では，部分床義歯の３つの構成要素の１つである金属フレームでの実践的アプローチと題して，デジタルは今田・アナログは中野が製作工程を紹介する中で，それぞれのワークフローを整理しながら優位性を提示する．

そのことにより，更なるデジタルデンチャーの発展・進化に期待したい．

略歴

中野 進也

1980年　大分県生まれ
2000年　九州医療専門学校　歯科技工士科本科卒業
2001年　九州医療専門学校　歯科技工士専攻科卒業
2001年　医療法人伊東会　伊東歯科口腔病院入社
2012年　ジョイクリエイト　開設
2021年　株式会社ジョイクリエイト　設立
所属学会
日本補綴構造設計士協会　講師・副会長
有床義歯学会　学術プログラム理事
日本顎咬合学会　会員
日本アンチエイジング歯科学会　会員
熊本SJCD 会員
日本補綴歯科学会　会員
熊本市歯科技工士会　副会長
その他
２０１０年～２０１７年　長崎歯科技術専門学校専攻科　非常勤講師
２０１２年～九州医療専門学校　歯科技工士専攻科　非常勤講師
２０１４年～　株式会社松風　テクニカルアドバイザー

今田 裕也

愛歯技工専門学校卒業
（株）協和デンタルラボラトリー
有床義歯学会　指導歯科技工士
日本口腔インプラント学会　認定技工士
BPS認定技工士



デジタル総義歯製作の現在地

―ミリングと従来法の比較―

野澤 康二

株式会社シンワ歯研

近年，IOSやCAD/CAM技術の普及により，クラウン・ブリッジやインプラント技工を中心に歯科技工のデジタル化が急速に進展している．一方，有床義歯，特に総義歯や部分床義歯では，口腔内情報の取得から設計，製作，加工に至るまで，従来法とデジタル技術をどのように組み合わせるかが重要な課題となっている．本発表では，「デジタル総義歯の現在地」をテーマに，従来法による総義歯製作とCAD/CAMを用いたデジタル総義歯製作を比較し，それぞれの特徴，利点，課題について検討する．

総義歯製作では，従来法における模型製作，人工歯排列，歯肉形成，重合，研磨といった工程に対し，デジタル技術を活用することで，設計情報の保存・再利用，製作工程の標準化，複製性の向上などが期待できる．一方で，印象や咬合採得などの臨床情報をどのようにデジタルデータへ反映するか，また最終補綴物の適合性や咬合，審美性をどのように担保するかについては，依然として歯科技工士の判断と技術が必要である．

さらに金属床のミリング加工を取り上げ，従来法との比較を行う．CADによる設計から加工までのデジタルワークフローを整理し，設計の再現性，加工精度，作業工程，品質管理の観点から，ミリングによる金属床義歯製作の可能性と課題を考察する．

デジタル化は従来技術を置き換えることだけが目的ではなく，歯科技工士が担ってきた経験や判断をデジタル技術と融合し，より再現性と効率性の高い製作体制を構築することに意義がある．本発表では，総義歯および金属床ミリングの実際を通して，有床義歯技工におけるCAD/CAM技術の現在地と，今後求められる技術・人材育成について考察する．

略歴
1999年　明倫短期大学卒業
同年　株式会社シンワ歯研入社
2009年　BPS認定技工士取得
2010年　イボクラールビバデント社（リヒテンシュタイン）研修
2015年　株式会社シンワ歯研　関東支社　支社長就任
2026年　株式会社シンワ歯研　社長就任



デジタル総義歯製作の現在地

―ミリングと従来法の比較―

亀遊 宏直
KIYU-DENTAL-STUDIO

近年，総義歯製作においてデジタル技術の活用が進み，CAD/CAMによるデジタルデンチャーが臨床の場で普及している．その中でも，あらかじめ工業的に重合・製造されたレジンブロックを切削加工する「ミリングデンチャー」は，従来のレジン填入・重合による製作方法とは異なる特徴を持つ．ミリングデンチャーでは，デジタルデータをもとに義歯床を設計・製作することで，安定した製作工程が可能となる．また，デジタルデータを保存することで，将来的な再製作や修理への応用が期待できる点も大きな利点である．一方で，設備や専用材料が必要となることや，デジタルデータを正確に活用するための知識と技術も求められる．ミリングデンチャーは，単に製作工程をデジタル化するだけではなく，義歯製作の考え方そのものを変える可能性を持つ技術である．本稿では，ミリングデンチャーの特徴と臨床における可能性について考察する．

略歴　KIYU-DENTAL-STUDIO　所長
O-Gai　執行役員
1980年生まれ
1998年　富山歯科総合学園入学
2000年　富山歯科総合学園卒
同年　KIYU-DENTAL-STUDIO入社
2006年　リヒテンシュタインにてBPS認定取得
2018年　ドイツアマンギルバッハにてCAD/CAM 研修
JPDA　有床義歯学会　指導技工士
BPS認定歯科技工士

12/6［日］ 14:10 ～ 14:40 ｜ 会場：503



精度の先にあるもの

― Take Home Try-inが拓くデジタルデンチャーの臨床的真価

飯田 雄太
飯田歯科本院

近年，3Dプリンターやミリングマシンによるデジタル総義歯は精度・効率の面で従来法に匹敵，あるいは凌駕するとされ，2025年の3Dプリント義歯の保険収載を経て一般臨床の現実的な選択肢となりつつある．しかし，精度の高さは治療に有利だが，それだけで成功が保証されるわけではない．特に下顎位が不安定な難症例では治療用義歯を介した段階的アプローチが不可欠だが，従来法では最終義歯製作とは別枠で治療用義歯を製作する必要があり，臨床応用のハードルとなっていた．

演者は，最終義歯製作の過程で通常プリントアウトする試適用義歯を，そのまま治療用義歯として機能させる「Take Home Try-in」を考案した．特別な工程を追加せず，試適期間を延長するのみで通常ワークフロー内に治療用義歯のステップを組み込める点が本コンセプトの核心である．今回，下顎位の左右的偏位と咬合高径低下を認めた81歳女性の下顎総義歯症例を提示する．ゴシックアーチでタッピングポイントが著しく不安定であったため本コンセプトを適用し，試適用義歯の装着下で下顎位を整えた．経過中に下顎位は大きく偏位したため，クリニカルリマウントによる咬合再調整，ダイナミック印象，審美的訴え（ガミースマイル）に対する人工歯形態のカスタム修正を試適用義歯上で重ね，段階的に下顎位と義歯形態を精緻化したうえで最終義歯へトランスファーし，良好な咬合安定と患者満足を得た．

本症例を通じ，ワークフローの簡便化が進む一方で，精密印象採得やクリニカルリマウントといったチェアサイドでのアナログ技術こそが最終的な精度を支えるという，デジタル時代における総義歯臨床の本質を報告する．

略歴
2013年　東京歯科大学卒
2014年　医療法人D&H かめだ歯科医院 勤務
2021年　飯田歯科本院 勤務
2025年　飯田歯科本院 院長
有床義歯学会 理事 認定医
SEMCD CLINICAL MASTER INSTRUCTOR
日本顎咬合学会 会員
日本補綴歯科学会 会員
株式会社モリタ デジタルデンチャーインストラクター
てんとう虫スタディーグループ

SPECIAL PROGRAM

Co-Creation Cafe & Sweets

体験型企業展示ブース

会場：501　　12/6［日］ 12:30 ～ 16:00

本大会のメインテーマ「Co-Creation with CAD/CAM ― CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから」は，歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士，そして企業がそれぞれの立場を越えて共に創ることを掲げています．この特別企画は，そのテーマを会場で体験していただくために設けました．

会場となる 501には，体験型の企業展示ブースが並びます．口腔内スキャナーやソフトウエアから，パウダーメンテナンスなどのケア製品まで，実機を実際にお手に取ってお試しいただけます．カタログや画面越しではわからない操作感を，開発・販売に携わる方々と直接話しながら確かめられる場です．

あわせて，コーヒーと軽食をご用意しております．講演の合間に一息つきながら，日頃お会いできない先生方やスタッフの皆様と語り合う時間としてもご活用ください．

ご案内

- 参加費は無料です．事前のお申し込みは必要ありません．
- 入退場は自由です．ご都合のよい時間にお立ち寄りください．
- 15：00 以降は，終了するブースもございます．あらかじめご了承ください．

出展企業

- Deltan株式会社
- 株式会社DentaLight
- 東京歯科産業株式会社
- 株式会社ナカニシ
- 株式会社松風
- EMS Japan 株式会社
- 株式会社４ＤＸ
- 株式会社モリタ
- 株式会社ヨシダ
- 株式会社クエスト
- stunning grow medical 株式会社

吸着義歯から始めるデジタルデンチャー
－アナログ印象から3Dプリントまでを体験する－

［CADソフト：DENTCA、プリンター：アキュプリント3D 4.0プロ］

チェアーサイド手技（印象、バイト等）と
スキャン後の設計操作（ソフト：DENTCA）から完成までを体験いただき、
デジタルデンチャーの治療の流れをご理解いただく企画です。

講 師



山崎 史晃 Fumiaki Yamazaki
有床義歯学会会長 指導医



毛呂 文紀 Fuminori Moro
日本臨床歯科CADCAM学会 指導医



辻 展弘 Nobuhiro Tsuji
日本臨床歯科CADCAM学会 指導医



池田 祐一 Yuichi Ikeda
日本臨床歯科CADCAM学会 指導医

事前登録　必要

定員　12名［先着順］

参加費

実習

●会員　歯科医師：20,000円
歯科技工士：10,000円
アカデミー：　5,000円

●非会員　歯科医師：25,000円
歯科技工士：15,000円
アカデミー：　8,000円

学会認定単位　2単位

exoplanを駆使した サージカルガイド製作

exoplan を使用し
最終補綴物を考慮したデザインのサージカルガイド製作の
一連の流れをご説明させていただきます。

講 師



中島 世陽 Seiya Nakajima

有限会社 KN デンタルラボラトリー 取締役
株式会社 Cadeeth.lab 代表取締役
株式会社クラレノリタケデンタル CAD/CAM インストラクター
株式会社ジオメディ exoplan インストラクター

事前登録　必要

定員　実習 8 名・聴講 20 名［先着順］

参加費

実習

●会員	歯科医師：	10,000 円
	その他：	5,000 円
●非会員	歯科医師：	10,500 円
	その他：	7,500 円

聴講

●会員	歯科医師：	7,000 円
	その他：	3,000 円
	アカデミー：	1,500 円
●非会員	歯科医師：	15,000 円
	その他：	4,500 円
	アカデミー：	1,500 円

機種を選ばない！
LCD 3Dプリンターのキャリブレーション完全攻略

無料スライサーソフト Chitubox を実機操作しながら、
低価格 LCD 3D プリンターでも高精度出力を実現する
キャリブレーション法を解説します。

講 師



米原 慎佑 Shinsuke Yonehara
株式会社デンティーノ 所長

事前登録　必要

定員　実習 8 名・聴講 30 名［先着順］

参加費

実習

●会員	歯科医師：10,000 円	
	その他： 5,000 円	
●非会員	歯科医師：15,000 円	
	その他： 7,500 円	

聴講

●会員	歯科医師： 7,000 円	
	その他： 3,000 円	
	アカデミー： 1,500 円	
●非会員	歯科医師：10,500 円	
	その他： 4,500 円	
	アカデミー： 1,500 円	

保険CAD/CAMインレー形成「考え方と形成実習」

本セミナーでは、CCC ベーシックコースのプレセミナーとして、
CAD/CAM インレーの材料・ミリングマシンの特性や接着の考え方を解説し、
模型を用いた形成実習を行います。

スケジュール

1. 保険 CAD/CAM インレー形成の原理原則についての講義
2. 大臼歯 2 級窩洞の形成実習

講 師



川上 伸大 Nobuhiro Kawakami
日本臨床歯科 CADCAM 学会指導医



熊谷 俊也 Toshiya Kumagai
日本臨床歯科 CADCAM 学会指導医

事前登録　必要

定員　20 名

参加費
- **会員**　歯科医師：　8,000 円
- **非会員**　歯科医師：12,000 円

学会認定単位　1 単位

MiYOによるデジタル時代の色彩表現
― 再現性の高いステインテクニックを学ぶ ―

MiYOを用いた効率的かつ再現性の高い審美表現を習得し、
デジタル時代に適した新たな色彩表現の可能性を体験していただきます。

講 師



吉村 拓郎 Takuro Yoshimura

ReArch Design 代表 歯科技工士

［略歴］

2008年　新東京歯科技工士学校卒業
2017年　湯浅セミナー5期修了
2017年　モリタ歯科技工登竜門テクニカルコンテスト優秀賞
2017年　医療法人社団 木津歯科 勤務
2026年　大阪SJCD臨床テクニシャンコース29期修了
2026年　埼玉県にてReArch Design開業

事前登録　必要

定員　実習10名・聴講20名［先着順］

参加費

実習

●会員	歯科医師：	10,000円
	その他：	5,000円
●非会員	歯科医師：	15,000円
	その他：	7,500円

聴講

●会員	歯科医師：	7,000円
	その他：	3,000円
	アカデミー：	1,500円
●非会員	歯科医師：	10,500円
	その他：	4,500円
	アカデミー：	1,500円

一歩先のシステム体感会
「チェアサイドCAD/CAM修復」

CAD/CAM 修復治療の原点はチェアサイド即日治療でした。
その理由を深堀りし、現在のシステムで実現する方法を紐解きます。

スケジュール

1. チェアサイド即日修復のメリット：CAD/CAM 治療 原点回帰
2. 各システム紹介：ユーザーからのミニレクチャー
3. 体感会：３システム実機にて体験　スキャン → デザイン → 加工

講 師



植田 愛彦 Naruhiko Ueda
日本臨床歯科 CADCAM 学会指導医



川上 伸大 Nobuhiro Kawakami
日本臨床歯科 CADCAM 学会指導医



熊谷 俊也 Toshiya Kumagai
日本臨床歯科 CADCAM 学会指導医



毛呂 文紀 Fuminori Moro
日本臨床歯科 CADCAM 学会 指導医

事前登録　必要

定員　30 名［先着順］

参加費

●**会員**　歯科医師：8,000 円
歯科技工士：4,000 円
DH. DA.TC：2,000 円
アカデミー：無料

●**非会員**　歯科医師：12,000 円
歯科技工士：6,000 円
DH. DA.TC：3,000 円
アカデミー：2,000 円

学会認定単位　1 単位

写真が変わると、印象が変わる
患者さんを美しく撮るためのカメラワーク［初心者向け］

「使える・綺麗に見せる」写真の撮り方レッスン。
初心者の方も簡単なポイントを意識するだけで、写真から伝わるイメージが変わります。
明日からの診療にすぐ取り入れられるよう
最低限の機材を用いて実践的なカメラワークを共有します

講 師



花田 純枝 Sumie Hanada

［略歴］
2013 年 大阪大学歯学部附属歯科技工士専門学校卒業
2013 年 大阪府歯科技工所 勤務
2014 年 株式会社ワンズ 勤務
2017 年 Teeth cafe 運営マネジメント
2021 年 Cross-enu 開業
2023 年 心斎橋セントラル歯科 非常勤勤務

事前登録　必要

定員　実習 15 名・聴講 10 名［先着順］

参加費

実習		聴講	
●会員	歯科医師：10,000 円	●会員	歯科医師：7,000 円
	その他：5,000 円		その他：3,000 円
			アカデミー：1,500 円
●非会員	歯科医師：15,000 円	●非会員	歯科医師：10,500 円
	その他：7,500 円		その他：4,500 円
			アカデミー：1,500 円

持ち物
・口腔内カメラセット一式（カメラボディ、マクロレンズ、ストロボ）
・標準 35mm－50mm を含むズームレンズ（お持ちであれば）
例 24-105mm、24-70mm、24-50mm、28-75mm、28-70mm など

抜歯症例を攻略する ClinCheck® 実践ハンズオン

本セミナーでは、抜歯症例の ClinCheck® を題材に、治療目標の設定から
デジタルセットアップの評価、具体的な修正指示の考え方までを実践形式で学びます。

主な内容

・抜歯症例における治療目標の設定
・抜歯スペース閉鎖のステージング
・前歯部のトルクおよび歯根コントロール
・臼歯部のアンカレッジ管理
・正中および咬合関係の評価
・アタッチメントと補助装置の考え方
・ClinCheck® の修正ポイントと指示方法
・グループワークによる症例検討
・講師による治療計画の解説と講評

講 師



松岡 伸也 Shinya Matsuoka
ヘルスアートプランニング 歯科医師

事前登録　必要

定員　24 名［先着順］

参加費
●**会員**　22,000 円
●**非会員**　55,000 円

持ち物 注意事項
・PC またはタブレット端末、筆記用具など
・インビザユーザーでなくても受講可能
・器材はこちらで用意
・各班に症例資料を配布し、ClinCheck を用いた治療計画を検討
・写真撮影・記録を行う場合があります（NG の方は受付まで）

学会認定単位　2 単位

AIでクリニックを変革する
– 活用で終わらせない本質の導入へ –

医院経営・業務フローを「AI 前提」で再設計する考え方
予約・説明資料・リコール・マニュアル・採用・シフト等の具体的な AI 活用例
「AI の落とし穴」の解説

人手不足、採用・定着の難しさ、院長や一部スタッフへの業務集中など、
歯科医院を取り巻く経営環境は大きく変化しています。
本講演では、生成 AIを単なる文章作成や業務効率化のツールとして捉えるのではなく、
医院経営・組織・業務フローそのものを AI 前提で再設計する考え方をお伝えします。

予約・キャンセル対応、患者様への説明資料作成、問い合わせ対応、
リコール・情報発信、院内マニュアル、スタッフ教育、採用、シフト管理、
在庫・発注、バックオフィス業務など、歯科医院における具体的な AI 活用例もご紹介。
一方で、部分的に AI を導入した結果、確認作業が増えたり、
現場に定着しなかったりする「AI 活用の落とし穴」についても解説します。

診療や患者様とのコミュニケーションなど、
人にしかできない価値をより高めるために、
AI に何を任せ、人が何に時間を使うべきなのか。
AI 時代の歯科医院経営と組織づくりを、具体例を交えながら考える講演です。

講 師



杉山 隆栄 Ryuei Sugiyama
株式会社 In Marketing Lab 代表取締役 CEO/CAIO

事前登録　必要

定員　40 名［先着順］

参加費
●**会員**　2,000 円
●**非会員**　5,000 円

学会認定単位　1 単位

座長：藤井 肇基



デジタル歯科時代の法的リスクマネジメントと業務範囲の境界線

小畑 真

小畑法律事務所　歯科医師・弁護士

歯科医療のデジタル化は急速に進み，IOSやCAD/CAMをはじめ，生成AIやSNSなど，さまざまな技術やツールが日常の診療や医院運営に取り入れられるようになっています．その一方で，新しい技術を導入する際には，利便性や効率性だけでなく，「誰が，どこまで行うことができるのか」「取得した情報をどのように取り扱うべきか」という法的な視点も欠かすことができません．

歯科医院では，歯科医師だけでなく，歯科衛生士，歯科技工士，歯科助手，受付スタッフなど，多くの職種が連携して診療を行っています．そのため，デジタル機器の操作や患者への説明などについても，それぞれの資格や立場に応じた業務範囲を理解し，適切な役割分担を行うことが重要です．技術的に「できる」ことと，法的に「行ってよい」ことは，必ずしも同じではありません．

また，生成AIの活用が広がる中では，患者情報や診療情報の取扱い，作成された文章や画像の利用，著作権など，新たな検討課題も生じています．SNSによる情報発信についても，個人情報，プライバシー，肖像権，医療広告などへの配慮が必要です．

本講演では，デジタル歯科時代において歯科医院が直面し得る法的問題を踏まえ，IOSを含むデジタル技術と各職種の業務範囲，生成AI・SNS・個人情報・著作権等をめぐる問題を取り上げながら，なぜ今，歯科医院にコンプライアンスが求められるのかを考えていきたいと思います．さらに，新しい技術の利便性を生かしながら安全に活用していくために，歯科医院としてどのような視点でリスクを把握し，管理していくべきかについても，実務的な観点から整理していきたいと思います．

略歴
1998年　北海道大学歯学部卒業
1998年　医療法人仁友会日之出歯科真駒内診療所勤務
2007年　北海道大学大学院歯学研究科修了［博士(歯学)］
2010年　北大法科大学院修了［法務博士］
2011年　司法試験合格
2012年　弁護士登録
2014年　小畑法律事務所開所
2016年　弁護士法人小畑法律事務所設立

12/5［土］ 9:30～12:00 | 会場：503

座長：小室 暁・堀 良彦・竜 正大（1名・交代制）



① ダイレクトプリントアライナー矯正で咬合再構成を行った1症例

A Case of Occlusal Reconstruction Using Direct-Printed Aligner Orthodontics

田中 雅　Masashi Tanaka

神保町タワー歯科・矯正歯科　歯科医師

症例の概要

40代，男性．主訴は前歯の歯並びを改善したい．初診時，上下顎前歯部に叢生を認め，前歯部被蓋および臼歯部咬合関係に不調和を認めた．また，歯石沈着および歯肉炎症を認めたため，矯正治療に先立ち歯周基本治療を行う必要があると判断した．

治療方針・治療経過

まず歯周基本治療を行い，口腔衛生状態の改善と歯肉炎症のコントロールを図った．その後，上下顎歯列の叢生改善，前歯部被蓋関係の是正，臼歯部咬合関係の安定化を目的として形状記憶アライナーを用いて，矯正治療を開始した．治療中は歯周組織への負担を考慮し，清掃指導および定期的な歯周管理を継続しながら歯の移動を行った．歯列弓形態および咬合接触の改善を図り，機能的かつ清掃性に配慮した咬合の獲得を目指した．

考察

正しく原因を説明し，患者と良好な信頼関係を得ることで，治療を円滑に進めることができた．成人矯正症例では，叢生による清掃困難や歯周炎症を伴うことが多く，矯正治療前から歯周管理を含めた包括的な診断が重要と感じた．今後も患者目線の優しい歯科診療を行えるよう研鑽を積んでいきたい．

座長：小室 暁・堀 良彦・竜 正大（1名・交代制）



② ダイレクトプリントアライナーを基盤とした生成AIデジタルワークフローの可能性

AI-Integrated Workflow for Direct-Printed Aligners

大谷 陸　Riku Otani

神保町タワー歯科・矯正歯科　歯科医師

【目的】

近年，ダイレクトプリントアライナー（DPA）の登場により，従来の模型製作，熱成形，トリミングを介さず，デジタルデータから矯正装置そのものを直接造形することが可能となった．さらに生成AIとCAD技術の発展により，既存ソフトウェアにあらかじめ設定された機能だけでなく，術者の臨床的意図を自然言語から三次元形状へ反映する新たな設計手法も可能になりつつある．本発表では，DirectFlex Aligner®（FOREST-ONE）を用いたDPAを基盤として，生成AI，汎用CADおよび歯科用CADを組み合わせた新しいデジタル矯正ワークフローの可能性について検討する．

【方法】

生成AIとしてAnthropic Claudeを使用し，Model Context Protocol（MCP）等を介してCAD環境と連携した．画像，STLデータおよび自然言語による設計指示から三次元形状を作成・修正し，STLデータとして出力，3Dプリントする一連のワークフローを検証した．さらにDPAへの応用として，アライナー本体の形態設計に加え，患者固有の歯列，咬合，顎位，口腔機能等を考慮した付加形態や補助装置への展開について検討した．

【結果】

予備的検討では，生成AIとの対話を介して汎用CAD上の三次元形状を作成・修正し，STL出力から実造形まで行うことが可能であった．また，DPAでは装置自体を直接デジタル設計・造形できる特性から，従来の熱成形アライナーや既存の矯正用ソフトウェアに限定されない形態設計へ展開できる可能性が示された．現在，矯正治療における具体的な適応対象および設計方法について検証を進めている．

【考察】

DPAの意義は製造工程の簡略化だけでなく，アライナーそのものをデジタルに設計できる点にあると考えられる．生成AIとCADを組み合わせることで，歯の移動のみを設計する従来のデジタル矯正から，患者個々の解剖学的・機能的情報を反映した装置設計へ発展する可能性がある．本発表では，その具体的応用例を提示し，AI，CADおよびAdditive Manufacturingを統合した次世代のデジタル矯正ワークフローについて考察する．



③ 歯科用3Dプリンターにおける造形条件及び後処理プロセスが機械的強度に与える影響の検討

石川 航生
やまざき歯科医院　歯科技工士

【目的】

10×10×55mmの試験片（図1）を用いた3点曲げ予備試験により，各種製作方法（プリンティング，ミリング，従来法）やプリンティングの液体樹脂材料の違い，造形機種，最終重合機，ならびにIPA洗浄時間が曲げ強度（MPa）に及ぼす影響を比較・検討することである．

【方法】

10×10×55mmの試験片（各条件N=5）を用意し，3点曲げ試験を実施した．評価および比較条件は以下の通りである．

1.材料・製作方法別の比較: プリンティングで製作した7(5)種類[*1]，ミリング1種類，従来法1種類の計9種類の試験片を用いて曲げ強度（MPa）を測定比較した．

2.造形機種別の比較: 同一材料を用い，3機種の3Dプリンターで製作した試験片の曲げ強度（MPa）を測定比較した．

3.重合機別の比較: 同一材料の試験片を用い，最終重合機3機種による曲げ強度（MPa）への影響を比較した．

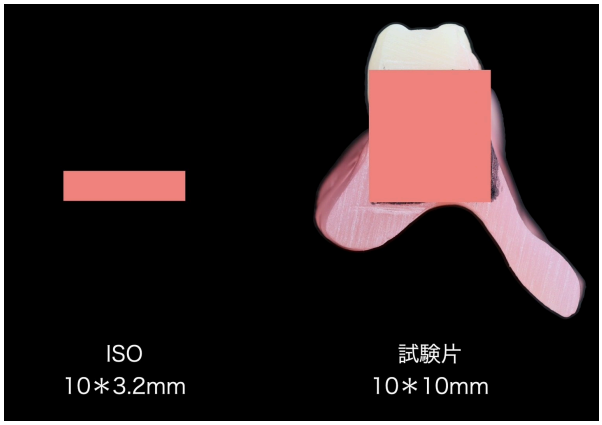
4.IPA洗浄時間別の比較: 同一材料の試験片を用い，IPA（イソプロピルアルコール）での洗浄時間（3分間および30分間）による曲げ強度（MPa）への影響を比較した．

【結果】

9種類の試験片における3点曲げ試験の結果，製作方法や液体樹脂材料の違い，ならびに造形機種の違いによる強度の差が観察された．同一材料で3種の造形機種での比較ではほとんど差は見られなかった．同一材料で３種の最終重合機での比較ではメーカー推奨の重合機と比較すると他2機種では大きな差ではないものの，強度が10%程低下する傾向が認められた．また，同一材料でIPAの洗浄時間別の試験では3分洗浄した試験片と比較して30分洗浄した試験片は約30%曲げ強度（MPa）が低下する結果となった．

【結論】

材料，造形機種ばかりに目が行きがちになるが予備試験結果からわかるように確立されたワークフローを持つ3Dプリンターの選定が重要です．プリントから洗浄，最終重合まで一貫したプロトコルが強度を保証すると言える．



座長：小室 暁・堀 良彦・竜 正大（1名・交代制）



④ 全顎3Dプリント模型における咬合器装着システムPrint & Clipの再現性評価

山田 とわ
やまざき歯科医院　歯科衛生士・歯科技工士

【目的】

口腔内スキャナー（IOS）の普及に伴い3Dプリント模型の需要が高まる中，石膏を用いずにアナログ咬合器へ直結するArtex Print&Click（Amann Girrbach, Austria）などの新機構が開発されている．本システムは石膏硬化膨張を排除できる利点を持つが，全顎モデルでは光造形時の収縮変形やインターフェースの嵌合精度が咬合再現性に影響を及ぼす可能性がある．そこで本研究の目的は，全顎3Dプリント模型を本システムを用いて装着した際の三次元的寸法精度と咬合接触再現性を検証することである．

【材料および方法】

生体顎模型の全顎デジタルデータをIOSであるMedit i900（Medit, Korea）にて取得後，専用CADソフトウェアCeramill M-Build（Amann Girrbach, Austria）を用いてPrint&Click規格の上下顎模型を設計した．DLP方式3Dプリンターcara Print 4.0 pro（Kulzer, Germany）および歯科用模型レジンdima Print Stone（Kulzer, Germany）を用いて造形後，メーカー指示に従い洗浄・二次重合の後処理を行った．その後，基準咬合器Artex CR（Amann Girrbach, Austria）へ装着した．評価項目として，工業用三次元検査ソフトウェアGOM Inspect（Carl Zeiss GOM Metrology, Germany）を用いた重合収縮・クロスアーチ変位の三次元偏位解析，咬合接触面積と咬合圧分布の再現性を測定・比較した．

【結果】

Print&Clickシステムにより石膏マウンティングに特有の垂直的な浮き上がり誤差は排除された．しかし，全顎モデル特有の形態に起因して臼歯部歯列弓幅径の変形（クロスアーチ方向の偏位）が観察された．また，プリント模型底面の勘合部におけるサポート除去痕や過露光層の残渣，ならびに造形公差により，ベースプレートとの完全密着が阻害されると，切歯指導針の変位や臼歯部咬合接触の不均一化が生じることが確認された．

【結論】

Artex Print&Clickは石膏膨張エラーを排除できる有用なシステムである一方，全顎3Dプリント模型において高い臨床的再現性を担保するためには，造形収縮に伴う歯列弓の形態補正，サポートピンの完全な除去，さらには模型装着時の確実な適合確認が必須であることが示唆された．

座長：小室 暁・堀 良彦・竜 正大（1名・交代制）



⑤ 顎運動を「見る」から「設計に活かす」へ

― MetiSmile Jaw Motionを応用した補綴CADワークフローの2症例 ―

From Observing Jaw Motion to Applying It in Prosthetic Design: Two Clinical Cases Using the Jaw Motion Function

丸橋 伸行　Nobuyuki Maruhashi

のぶ歯科・歯ならび歯科　歯科医師

【背景・目的】

顎運動検査データは患者のすべての顎運動を完全再現するものではなく，術前に十分な記録が困難な症例も多い．従来，こうしたデータは主に観察・評価に用いられてきた．今回，フェイススキャナMetiSmile Jaw Motion®（SHINING3D社製）で取得した動的情報から，安静空隙量およびタッピング経路の再現性を指標として下顎位を評価・選択し，補綴CAD設計へ活用した2症例を報告する．

【症例】

両症例で約50回のタッピング運動を記録した．

症例1：上顎総義歯，下顎前歯・小臼歯部クラウン作製する症例であった．安静空隙の範囲内で，タッピング終末位が最も収束し，再現性が高い下顎位を選択してCAD設計に反映した．

症例2：12～22残存，13～17および23～27が欠損した症例で，タッピング経路のばらつきが大きかった．安静空隙量を確認したうえで0.4mmの咬合挙上位を設定し，得られた動的情報から複数の咬合位候補をCAD上で比較し，補綴設計に反映した．

【考察・結論】

顎運動検査データは限定的で，その解釈と補綴設計への応用には臨床判断が不可欠である．しかし，十分な顎運動記録が困難な症例でも，安静空隙と運動の再現性を指標とすることで，得られた動的情報を咬合位の選択および補綴CAD設計に活用することができた．特に0.4mmという微小な咬合挙上量をデジタル上で設定できることは，従来の咬合採得材では精密な制御が困難な場面で有用と考えられた．「取得した動的情報をどのように解釈し，どう設計に活かすか」という視点は，デジタル補綴における顎運動検査の役割を観察・評価から補綴設計支援へと広がる可能性を示している．

座長：小室 暁・堀 良彦・竜 正大（1名・交代制）



⑥ IOSを用いたデジタルコピーデンチャー製作における義歯スキャン精度向上の検討

Improving Denture Scanning Accuracy Using an Intraoral Scanner for Digital Copy Denture Fabrication

河野 高志　Takashi Kono

山口歯科医院　歯科医師

総義歯臨床において，コピーデンチャーを治療用義歯や咬合圧印象用トレーとして用いることは有用であり，これまで様々な文献で評価されている．特に近年では，高齢化に伴い顎堤が高度に吸収した難症例も多く，既存義歯の形態や顎位を新義歯製作に活用できるコピーデンチャーは有効な選択肢の一つである．

また，歯科用スキャナーやCAD，3Dプリンターなどのデジタル技術を用いることでコピーデンチャーの製作は格段に容易となり，当院でも日常臨床に取り入れている．デジタルコピーデンチャー製作時の義歯スキャンにIOSを用いることで，義歯を預かることなく院内でデジタルデータを取得でき，患者負担の軽減につながる．一方，そのスキャン精度がどの程度確保されているかは重要な問題である．

そこで今回，当院で日常的に使用しているIOS　Aoralscan 3®（SHINING 3D社製）を用いて義歯をスキャンし，得られたデータの精度について検証を行った．さらに，より精度の高い義歯スキャンを行うための方法について検討し，デジタルコピーデンチャー製作におけるIOSの臨床的有用性と課題について報告する．

12/5［土］ 9:30～12:00 | 会場：503

座長：小室 暁・堀 良彦・竜 正大（1名・交代制）



⑦ デジタル技術を活用した全部床義歯製作における早期機能回復から最終補綴への移行

From Early Functional Recovery to Definitive Prosthetic Rehabilitation in Complete Denture Fabrication Using Digital Technology

末木 芳佳 Yoshika Sueki

医療法人千志会　毛呂歯科医院　歯科医師

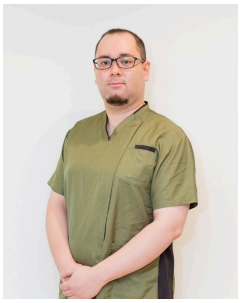
近年，デジタル技術の進歩に伴い，全部床義歯製作においてもデジタルワークフローの臨床応用が広がっている．

今回，全顎的な歯牙喪失に至り，使用可能な義歯を有していない60代女性に対し，デジタル技術を活用することで早期に全部床義歯を製作し，審美性および機能の回復を図った．まず，アナログの手法とデジタルワークフローを組み合わせて短期間で義歯を製作し，患者の適応状態を確認しながら顎位および咬合の評価・修正を行った．

その後，得られた顎位や形態的情報をコピーデンチャーへ反映し，最終義歯製作へ移行した．最終補綴に際しては，デジタルデータを活用して顎位や咬合を多角的に検討するとともに，従来のアナログ手法を併用した．

本症例を通じ，デジタル技術の活用は全部床義歯製作期間の短縮に寄与するだけでなく，治療過程で得られた顎位や形態情報を可視化・保存し，最終補綴へ継承する上でも有用であると考えられた．また，デジタルとアナログ双方の利点を適切に組み合わせることが，より予知性の高い全部床義歯治療につながる可能性が示唆された．

座長：小室 暁・堀 良彦・竜 正大（1名・交代制）



⑧ デジタル技術を応用したコーヌスクローネ義歯の製作

Fabrication of a Conus Crown-Retained Denture Using a Digital Workflow

ブルース 淳 アレックス　Jun Alex Bruce

（医）白亜会　小室歯科矯正歯科近鉄あべのハルカス診療所　歯科技工士

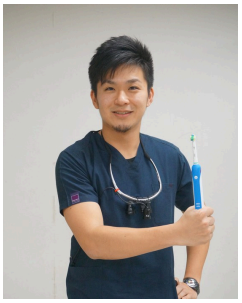
コーヌスクローネ義歯は，内冠形態やコーヌス角，支台歯間の平行性など，維持力や着脱に関わる精密な設計が求められる．このような複雑かつ高精度な設計が必要とされる点は，コーヌスクローネに限らず，各種アタッチメントを用いた可撤性義歯にも共通する特徴である．

近年，デジタル歯科技術の発展により，これまで術者や歯科技工士の経験に依存する部分の大きかった複雑な補綴設計を，デジタル上で数値化し，再現することが可能となってきた．

今回，コーヌスクローネ義歯の製作にデジタル技術を応用した症例を経験した．内冠にはジルコニアを用い，設計ソフト上でコーヌス角および挿入方向を設定し，CAD/CAMにより製作した．また義歯については，旧義歯や仮義歯を利用して印象採得を行い，得られた情報をデジタル化した上で設計し，3Dプリンターを用いて製作した．

複雑で高い精度が求められるアタッチメント義歯において，設計情報をデータとして管理し，再現できるデジタルワークフローは有用であると考えられる．本発表では，その製作工程を提示し，デジタル技術を応用する利点と今後の課題について，歯科技工士の立場から報告する．

座長：小室 暁・堀 良彦・竜 正大（1名・交代制）



⑨ 咬合再構成に対するデジタルコピーデンチャーを応用した3Dプリント個人トレーを用いた一例

Clinical Application of a 3D-Printed Custom Tray Using Digital Copy Denture Data for Full-Mouth Occlusal Reconstruction

安岡 大介　Daisuke Yasuoka
ミライノデンタルクリニック　歯科医師

【目的】

咬合崩壊により咬合高径が低下した症例に対し，プロビジョナルレストレーションで確立した咬合を最終補綴へ効率的に移行するため，デジタルコピーデンチャーを応用した3Dプリンティング個人トレーを用いた咬合再構成を行ったので報告する．

【症例】

患者は50代女性．咬合崩壊に伴う咬合高径の低下を認め，咬合再構成を行うこととなった．上顎は総義歯，下顎は前歯部を補綴処置，臼歯部を部分床義歯にて治療する計画とした．プロビジョナルレストレーションにより咬合関係を確認し，安定した状態を得た．

【方法】

従来法では，下顎前歯部の最終補綴，ならびに上顎総義歯・下顎部分床義歯の製作など，補綴ステップごとに最終補綴物へ咬合関係を移行するためのバイト採得が必要となる．本症例では，IOSを用いて口腔内および既存義歯をデジタル化し，デジタルコピーデンチャーのデータを応用して3Dプリンティング個人トレーを製作した．さらにCADソフトを活用し，プロビジョナルで確立した咬合情報をデジタルデータ上で管理・活用することで，最終補綴への移行を行った．

【考察・結論】

IOSの性能向上とCADソフトの応用により，従来補綴ステップごとに必要であった咬合採得を効率化し，安定したプロビジョナルで確立した咬合関係を最終補綴へ移行できる可能性が示唆された．デジタルコピーデンチャーを応用した3Dプリンティング個人トレーは，咬合再構成におけるデジタルワークフローの一手法として有用と考えられた．

ポスター発表

P1 **骨格性3級　咬合崩壊症例にデジタルを用い咬合再構成を行った1症例**

A Case of Occlusal Reconstruction Using Digital Technology for a Patient with Skeletal Class III Malocclusion and Occlusal Collapse

田中 雅 Masashi Tanaka　神保町タワー歯科・矯正歯科　歯科医師

P2 **ダイレクトプリントアライナーの有効性について検討**

Effectiveness of Direct-Printed Aligner

大谷 陸 Riku Otani　神保町タワー歯科矯正歯科　歯科医師

P3 **3Dプリント義歯における5年および6年長期経過症例の検討ーセルフケアが予後に及ぼす影響ー**

山本 美怜 Mirei Yamamoto　やまざき歯科医院　歯科衛生士・歯科技工士

P4 **デジタルガイドを応用した歯内療法の臨床応用**

Clinical Application of Digital Guides in Endodontics

渡邉 利章 Toshiaki Watanabe　さんくす歯科クリニック吹田　歯科医師

P5 **アナログとデジタルを融合した咬合再構成**

Occlusal Reconstruction Integrating Analog and Digital Approaches

前田 武将 Takemasa Maeda　医療法人優聖会　MAEDA DENTAL CLINIC　歯科医師

P6 **インプラント治療におけるデジタルワークフローの構築と院内技工士の役割 ― サージカルガイド製作から最終補綴までの一貫対応 ―**

Development of a Digital Workflow and the Role of In-House Dental Technicians in Implant Treatment ― Integrated Workflow from Surgical Guide Fabrication to Definitive Restoration ―

河上 聡志 Satoshi Kawakami　医療法人田中歯科医院　歯科技工士

P7 **既存義歯形態と口腔内粘膜面スキャンデータの統合による新製義歯製作の一例**

Fabrication of a New Denture by Integrating the Morphology of an Existing Denture with Intraoral Mucosal Scan Data: A Case Report

村上 崇 Takashi Murakami　医療法人田中歯科医院　歯科医師

P8 **歯科衛生士業務におけるフェイススキャンの活用 ～小児の成長記録とリップアートの施術評価への応用～**

Utilization of Facial Scanning in Dental Hygienist Practice: Applications in Pediatric Growth Documentation and Lip Art Treatment Evaluation

高田 仁美 Hitomi Takada　草津駅前デンタルクリニック　歯科衛生士

P9 **フェイススキャンを用いたリップアートの評価**

Evaluation of Permanent Lip Makeup Using 3D Facial Scanning

鈴木 愛 Ai Suzuki　こばやし歯科クリニック　歯科衛生士

P10 **歯科衛生士における口腔内スキャナーの導入と活用**

Implementation and Adoption of Intraoral Scanners Among Dental Hygienists

木下 稀愛 Noa Kinoshita　こばやし歯科クリニック　歯科衛生士

P11 **口腔内スキャナーを活用した初診患者へのデジタルカウンセリング**

Digital Counseling for New Patients Using an Intraoral Scanner

山田 菜摘 Natsumi Yamada　草津駅前デンタルクリニック　歯科助手・トリートメントコーディネーター・管理栄養士

P12 **複数のIOSを用いた院内技工ワークフローの有用性について**

Evaluation of the Utility of an In-House Dental Laboratory Workflow Using Multiple Intraoral Scanners

田中 秀直 Hidenao Tanaka　医療法人田中歯科医院　歯科医師

P13 **デジタル機器を使用したインプラント治療の一症例**

A Case Report of Implant Treatment Using Digital Technology

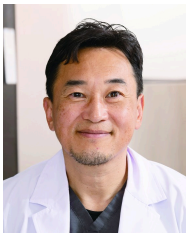
吉橋 直弥 Naoya Yoshihashi　錦デンタルクリニック　歯科医師

ポスター発表は，会議センター5F　513並びに513向かい側のスペースに掲示します．
12月6日 11:50 ～ 12:10 は発表者がポスターの前に在席し，質疑応答を行います（座長は置きません）．

12/6［日］ 15:00～16:00 | 会場：503

司会：末木 芳佳

15:00～



固定性から可撤性へつなぐデジタル補綴の真髄

山崎 史晃
有床義歯学会 会長

12年前にCEREC Omnicamを導入した当初，適合不良や装着後の疼痛に苦慮する症例を多く経験した．しかし日本臨床歯科CADCAM学会での学びを通じ，デジタルに適した支台歯形成と徹底した接着管理の重要性を痛感し，デジタルの成否は「正しい知識の獲得と基本プロセスの徹底」にあると確信した．

9年前より着手したデジタル義歯の臨床においても，その教訓は大いに活きている．粘膜などの軟組織は光学印象との相性が必ずしも良好とは言えず，従来法による機能的な精密印象と再現性の高い確実な咬合採得が不可欠である．そして，その物理的情報を狂いなく正確にスキャニングすることが精緻な設計の基盤となる．

さらに最終的な造形工程においては，ミリング加工であれ3Dプリンティングであれ，各機器の特性を正しく把握し，設定パラメータや後処理の手順を厳密に遵守することが成功への鍵となる．本講演では，両学会の知見を融合させ，デジタルデンチャーを臨床で確実に成功へ導くための勘所を総括したい．

15:30～



CAD/CAM臨床の現在地とこれから

―デジタル技術を患者価値へつなぐ―

北道 敏行
一般社団法人 日本臨床歯科CADCAM学会 会長／第12回学術大会 大会長

歯科CAD/CAMは，修復物を製作するための技術から，診査・診断，治療計画，補綴治療，メインテナンスまでをつなぐ臨床基盤へと，その役割を広げている．口腔内スキャナーを起点としたデジタルワークフローに，CADソフトウェア，切削加工，3Dプリンティング，さらにはAIの活用が加わり，歯科医療の選択肢は大きく拡大した．一方，機器の進化が，そのまま治療の質の向上を保証するわけではない．支台歯形成，軟組織の管理，材料選択，接着操作といった臨床の基本を踏まえ，各技術の特性と限界を理解することが不可欠である．また，デジタルデータを共通言語として，歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士が情報と治療目標を共有することは，より円滑な連携と継続的な口腔健康管理につながる．本講演では，口腔内スキャナーを軸にCAD/CAM臨床の現在地を整理し，日常臨床への実装に必要な視点と今後の課題を総括する．大会テーマである「Co-Creation」のもと，技術と人が共に生み出す価値を見つめ直し，患者にとって安心と納得のある歯科医療のこれからを考えたい．

ランチョンセミナー

A　ランチョンセミナーA

12/5［土］ 11:50 ～ 12:40　会場：501

IOSを選ぶ時代から，ワークフローを選ぶ時代へ

―世界の潮流から考えるiTero Lumina™ × SprintRayの可能性―

櫻井 祐弥　医療法人社団 結桜会 サニタス歯科・矯正歯科クリニック 理事長

共催：インビザライン・ジャパン合同会社

B　ランチョンセミナーB

12/5［土］ 11:50 ～ 12:40　会場：502

テクノロジーが歯科医療にあたえてくれるもの

小島 秀騎　株式会社SCOグループ クリニック事業部 部長

共催：株式会社SCOグループ

C　ランチョンセミナーC

12/5［土］ 11:50 ～ 12:40　会場：411+412

保険適用3次元プリント有床義歯材料“SprintRay Apex”の臨床応用と実際

前畑 香　ナカエ歯科クリニック 院長／神奈川歯科大学 特任教授

共催：株式会社ヨシダ

D　ランチョンセミナーD

12/6［日］ 12:10 ～ 13:00　会場：503

デジタル義歯は，義歯臨床の「何」を変えるのか？

― アナログにプラスデジタル!! 訪問診療から考える“選べる義歯臨床” ―

阿座上 遼子　一ツ星歯科醫院 院長

共催：株式会社モリタ

E　ランチョンセミナーE

12/6［日］ 12:10 ～ 13:00　会場：502

オープンシステムで広がる院内CAD/CAMの可能性

― クリニック経営から考えるRAY MILL C導入の新戦略 ―

藤本 智也　医療法人社団 篤豊会 理事長

共催：株式会社RAY JAPAN

※ ランチョンセミナーの運営は各共催企業が行います．

ランチョンセミナーのチケットは，当日朝受付にて配布します．

認定審査会開催のお知らせ

本学会はCAD/CAM治療の研鑽を通じて歯科臨床の向上に努め，もって国民の健康増進に寄与することを目的としております．一層の専門的知識と技術を有する歯科医師を育成し，地域医療に貢献することを目指す制度として，『一般社団法人日本臨床歯科 CADCAM学会認定医制度』を設立しております．

本年度は第5回の認定審査会開催となり，本学会の第１2回学術大会(神奈川県開催)に合わせて下記の要領にて認定審査会を開催致します．

記

日時　令和８年１２月５日（土）　１０時より

場所　パシフィコ横浜　会議センター

なお，暫定期間中の認定医申請に必要な書類や単位数などの詳細につきましては，学会ホームページをご覧ください．会員の皆様におかれましては，本学会の認定医制度にご理解をいただき，今後ともご支援，ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます．

認定担当理事　髙松雄一郎

歯科衛生士認定講座について

12/6［日］ 9:00 ～ 10:30 ｜ 会場：501

本学会は，CAD/CAM等のデジタルに関わる広い学識と高度な専門的技能を有する歯科衛生士の養成を図り，デジタライゼーションそしてその先のDXへの発展と向上並びに国民の福祉に貢献することを目的として，学会公認認定歯科衛生士の資格を設けました．

この講座受講によって必要単位のうちの**3単位**が付与されます．終了後に会員ページの2次元コードにて受講証明を行います．会員管理ページの2次元コードを表示できますようご準備をお願い致します．

日時：12月6日（日） 9:00～10:30
場所：501

＊講座開始20分以降は入場できません（単位は付与不可）のでご注意ください．

歯科技工士認定講座について

12/5［土］ 9:30 ～ 11:30 ｜ 会場：501

日本臨床歯科CADCAM学会認定技工士資格制度は，口腔内スキャナー，ラボスキャナー，CADソフト，CAMソフト，切削加工機，積層造形その他のデジタル技術を活用した歯科技工について，広い学識と専門的知識及び技能を有する歯科技工士を育成することにより，デジタルデンティストリーの発展及び歯科医療の質の向上に貢献することを目的として創設されました．

この講座を受講することによって，必要単位のうち，**3単位**が付与されます．認定技工士を目指す方は，ぜひご受講ください．
＊講座終了後に会員ページの2次元コードにて受講証明を行います．会員管理ページの2次元コードを表示できるよう，ご準備をお願いします．

日時：12月5日（土） 9:30～11:30
場所：501

＊講座開始20分以降は単位付与できませんので，ご注意ください．

Thinking ahead. Focused on life.

MORITA

Accuios

人間工学に基づいた、人にやさしい IOS

すべての人にやさしい診療を目指して。
モリタの技術を集約した、人にやさしい口腔内スキャナー（IOS）が誕生しました。
人間工学に基づいた使いやすいデザインで、開口幅の小さい患者さんでも無理なく口腔内をスキャンできます。CTなどのデータを活用することで、三次元的な診断や治療計画が可能になり、スムーズな診療を実現します。



製品紹介ページ

発売　株式会社 モリタ　大阪本社：大阪府吹田市垂水町3-33-18　〒564-8650　TEL 06-6380-2525
東京本社：東京都台東区上野2-11-15　〒110-8513　TEL 03-3834-6161
製造販売　株式会社 モリタ製作所　本社：京都府京都市伏見区東浜南町680　〒612-8533 TEL 075-611-2141
販売名 アクイオス　一般的名称：デジタル印象採得装置　機器の分類：管理医療機器（クラスII）　特定保守管理医療機器
医療機器承認番号：30300BZX00243000

お客様相談センター　歯科医療従事者様専用　T 0800. 222 8020（フリーコール）

4DX for the new stage

SHINING 3D

補綴だけでなく”予防”にも。

Drだけでなく”DH”にも。



@4DX_IOS

@4DX_ORTHO

株式会社４ＤＸ　口腔内スキャナー・フェイススキャナー・デジタル技工の販売

令和8年度 歯科診療報酬改定対応モデル

光学印象の算定評価引き上げに対応。
医院のデジタル化を推進。

神樂 KAGURA Smart

次世代口腔内スキャナー 神樂スマート

月額費用・
年間ライセンス更新料 0円



軽量 138g コンパクト

長時間の使用でも手が疲れにくく、どなたでもスマートにスキャンをこなせます。

5年間 長期自損保証

落下などの偶発的な自損事故にも対応可能なサポートプランを完備。診療を止めない安心を約束します。

※保守保証費は本体価格と別途で最大5年間30万円(税別)となります。

豊富な機能 バリエーション

補綴製作だけでなくカウンセリング機能も充実。3Dプリンターやアライナーサービスとの連携もご提案できます。

本製品に関する製品基本情報(薬事・法規対応)　一般的名称:デジタル印象採得装置　販売名:神樂　口腔内スキャナ
医療機器承認番号:30500BZI00002000(管理医療機器　特定保守管理医療機器(クラスⅡ))　製造販売業者:Fuss合同会社　販売元:Deltan株式会社

Deltan株式会社　https://kagura.deltan.jp/

是非ブースで、操作感・データ精度をご体感ください。

DELTAN

MEDIT *i*900 Mobility

デビュー

2026.10.06



MEDIT

一般的名称:i900 オーラルスキャナ　承認番号:30800BZI00003000

NEW

シンプル操作で
より安定した接着を追求した
オールラウンド レジンセメント

Smile for the World
Since 1921
100 years of Quality in Dental



ユニバーサルレジンセメント

ジーセム ユニバーサル
ジーセム ユニバーサル カートリッジ

保険適用

GC友の会
歯科医師会員新製品特典

※特典はジーセム ユニバーサル
（オートミックスタイプ）のみです。

ジーセム ユニバーサル
製品情報はコチラ

発売元 株式会社 ジーシー ／ 製造販売元 株式会社 ジーシー
東京都文京区本郷3丁目2番14号　東京都板橋区蓮沼町76番1号

歯科接着用レジンセメント　ジーシー　ジーセム　ユニバーサル
管理医療機器　307AKBZX00104000
歯科接着用レジンセメント　ジーシー　ジーセム　ユニバーサル　カートリッジ
管理医療機器　307AKBZX00105000

※掲載の内容は2026年10月現在のものです。※色調は印刷のため、現品と若干異なることがあります。※会社名、製品名称等は各社の商標または登録商標です。

Dentsply Sirona

診療スタイルに合わせて、ベストな一台を
CEREC システム



CEREC Primemill
品質とスピードを両立



CEREC Primemill Lite
迅速で安定した品質
NEW



CEREC GO
シンプルな操作性
NEW

CERECシステムは、シンプルなエントリーモデルから、さまざまなモードに対応したアドバンスドモデルまで、
必要な性能や運用に応じたワークフロー構築をサポートします。

スーパーファスト・グラインディング
コンポジットおよびハイブリッドセラミックスのインレー、アンレー、クラウンの単冠修復において、
インレーで約2分[1]、クラウンで約4分[1]のグラインディング時間を実現します。



1 データは社内資料に基づく

デンツプライシロナ株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1 住友不動産汐留浜離宮ビル5F
カスタマーサービスホットライン 0120-667-467
www.dentsplysirona.com

一般的名称：歯科技工室設置型コンピュータ支援設計・製造ユニット　販売名：セレック　プライムミル　届出番号：13B1X10236S10022　一般医療機器
一般的名称：歯科技工室設置型コンピュータ支援設計・製造ユニット　販売名：セレック　プライムミル　Ｌｉｔｅ　届出番号：13B1X10236S10032　一般医療機器
一般的名称：歯科技工室設置型コンピュータ支援設計・製造ユニット　販売名：セレック　Ｇｏ　届出番号：13B1X10236S10033　一般医療機器

MRK040000026fi_202604_M116

SprintRay

SprintRay Apex Base and Teeth は、高強度と自然な審美性を両立した 3D プリント義歯用材料です。簡単な後処理で高品質な義歯製作を実現し,次世代のデジタルデンチャーソリューションを提供します。

▲商品の詳細はこちら

YOSHIDA

APEX
Base and Teeth

義歯床用アクリル系レジン・歯冠用硬質レジン



商品名:SprintRay Apex ベース　一般的名称:義歯床用アクリル系レジン(管理)　認証番号:308ADBZI00019000
商品名:SprintRay Apexティース　一般的名称:歯冠用硬質レジン(管理)　認証番号:308ADBZI00018000
製造販売元:有限会社プライムファイン 東京都渋谷区西原一丁目 38 番 3 号 西原アパートメント

●お問い合わせ先　株式会社ヨシダ　東京都台東区上野7-6-9
コンタクトセンターCAD／CAM　フリーダイヤル:0800-170-1170　https://www.yoshida-dental.co.jp

Yoshida Group 120th

VITA

VITA VIONIC SYSTEM

ビタ バイオニック システム

デジタル　デンチャー

HAKUSUI

デジタル義歯設計の新しいスタンダード！

次世代の人工歯 VITA VIONIC VIGO®
リアルな美しさと高強度。
ビタ バイオニック ビーゴ
デジタル義歯用MRP人工歯



VITA VIONIC® BASE DISC HI
理想の義歯を支えるディスク
ビタ バイオニック ベース ディスク HI
義歯床用ハイインパクトレジンディスク



VITA VIONIC® DENT DISC multi Color
天然歯のようなグラデーション、美しさをその先まで
ビタ バイオニック デントディスク マルチカラー
切削加工用MRPディスク



VITA VIONIC® BOND
精密ミリング × 強固な接着、優れた耐久性
ビタ バイオニック ボンド
セルフキュアー型ボンディング材





製品の詳細は HAKUSUIホームページ をチェック！

販売名：ビタ バイオニック ビーゴ　一般的名称：アクリル系レジン歯
管理医療機器　認証番号：306AKBZX00062000　製造販売業者名：白水貿易株式会社

販売名：ビタ バイオニック デント ディスク マルチカラー　一般的名称：歯科切削加工用レジン材料
管理医療機器　認証番号：306AKBZX00060000　製造販売業者名：白水貿易株式会社

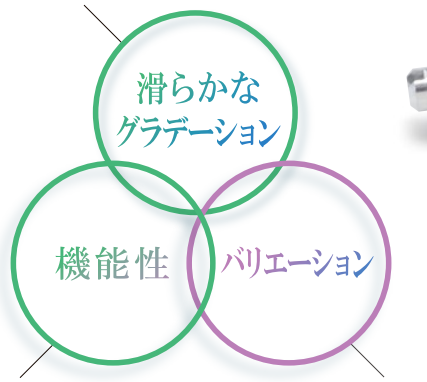
販売名：ビタ バイオニック ベース ディスク HI　一般的名称：義歯床用熱可塑性レジン
管理医療機器　認証番号：306AKBZX00027000　製造販売業者名：白水貿易株式会社

販売名：ビタ バイオニック ボンド　一般的名称：義歯床用接着材料
管理医療機器　認証番号：306AKBZX00024000　製造販売業者名：白水貿易株式会社

kuraray　　Noritake

カタナ® アベンシア® シリーズ

シームレスなマルチレイヤーで
前歯部から小臼歯部の審美領域にも対応*1



優れた滑沢耐久性と
機械的強度の両立

前歯部から臼歯部まで、
多様な症例に対応

詳しくは
こちら

*1「カタナ® アベンシア® N」、
「カタナ® アベンシア® ブロック 2」
が該当



カタナ® アベンシア® P プラス NEW
新たなシェードラインナップ※追加により、
幅広い症例に対応　※OE、A1、A4

カタナ® アベンシア® N

管理医療機器　歯科切削加工用レジン材料
医療機器認証番号：301AFBZX00015Z00　ユニバーサル用

前歯対応		CAD/CAM冠用材料（Ⅳ）
種別	サイズ	色調
ML	14L	A1, A2, A3, A3.5, B1, B2

カタナ® アベンシア® ブロック 2

管理医療機器　歯科切削加工用レジン材料
医療機器認証番号：302AFBZX00019Z00　ユニバーサル用

小臼歯対応		CAD/CAM冠用材料（Ⅱ）
種別	サイズ	色調
単層	12、14L	A2, A3, A3.5, A3 OP, OE*
ML		A2, A3, A3.5　*サイズ12のみ

カタナ® アベンシア® P プラス NEW

管理医療機器　歯科切削加工用レジン材料
医療機器認証番号：308ABBZX00001000　ユニバーサル用

大臼歯対応		CAD/CAM冠用材料（Ⅲ）
種別	サイズ	色調
単層	12、14	A1, A2 ,A3, A3.5, A4, OE

●ご使用に際しましては、製品の電子添文等を必ずお読みください。●印刷のため、実際の色調と異なる場合があります。●仕様及び外観は、製品改良のため予告なく変更することがありますので予めご了承ください。

クラレノリタケデンタル株式会社
お問い合わせ（医療従事者様・販売代理店様向け窓口）
0120-330-922　平日 10:00~17:00
〒100-0004　東京都千代田区大手町2丁目6-4　常盤橋タワー

［製造販売元］クラレノリタケデンタル株式会社
〒959-2653　新潟県胎内市倉敷町2-28

［販売元］株式会社モリタ
〒564-8650　大阪府吹田市垂水町3-33-18
お客様相談センター：0800-222-8020〈医療従事者様向窓口〉

「カタナ」はノリタケ株式会社の登録商標です。「アベンシア」は株式会社クラレの登録商標です。

クラレノリタケデンタル
LINE公式アカウント
友だち追加はこちらから

最新情報
配信中!

10／2026





一般社団法人 日本臨床歯科CADCAM学会 第12回学術大会
有床義歯学会 第11回学術大会［共催］

プログラム・抄録集

Co-Creation with CAD/CAM
― CAD/CAMと共に創る歯科医療のこれから

会　期	2026年12月5日（土）・6日（日）
会　場	パシフィコ横浜 会議センター
発行日	2026年11月9日
発　行	一般社団法人 日本臨床歯科CADCAM学会
発行人	毛呂 文紀　辻 展弘

本誌掲載の記事・写真・図表の無断転載・複製を禁じます.
© 2026 Japanese Society of Computer Aided Dentistry (JSCAD)　All rights reserved.

日本臨床歯科CADCAM学会

夏フェス2027

ONE TEAM DENTISTRY

Connect. Collaborate. Create.

— DR・DH・DT・企業がつながり、
患者さんの未来を創る —

2027年7月18日(日)

会場 大阪 あべのハルカス

実行委員長 堀 良彦

プログラム・参加申込などの詳細は、後日ご案内いたします。

一般社団法人 日本臨床歯科CADCAM学会

JAPANESE SOCIETY OF COMPUTER AIDED DENTISTRY

2027 ANNUAL SCIENTIFIC MEETING

学術大会 開催予告

DIGITAL WINGS

The Future of Dentistry Takes Flight

デジタル歯科の未来へ、ここから羽ばたく。

SAVE THE DATE

2027 12.11 SAT — 12.12 SUN

パシフィコ横浜ノース PACIFICO YOKOHAMA NORTH

詳細は後日ご案内いたします